

神奈川県立大船フラワーセンター
指定管理者

事業計画書

| | |
|------|--------------------|
| 法人等名 | アメニス大船フラワーセンターグループ |
|------|--------------------|

法人等の概要

(令和4年3月現在)

| | | | | | |
|-----------------------------|--|----------------|----------------|----------------|-------------------------|
| 法人等名 | かぶしがいいひびやあめにす 株式会社日比谷アメニス | | | | |
| 所在地 | 〒108-0073 東京都港区三田四丁目7番27号 | 電話番号 | 03-3453-2401 | | |
| 代表者 | 代表取締役 伊藤 幸男 | FAX | 03-3453-2426 | | |
| 設立年月日 | 1971年10月1日 | | | | |
| 沿革 | 1872年 創業～東京都葛飾区堀切に庭園業を開始 1947年 「有限会社芳梅園」設立 1950年 「株式会社日比谷花壇」商号変更(造園土木部) 1971年 「株式会社日比谷花壇造園土木」設立 1991年 「株式会社日比谷アメニス」商号変更 | | | | |
| 業務内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・造園土木、一般土木並びに建築工事 ・ゴルフ場建設及び各種競技場工事 ・遊園器具及び体育器具設置工事 ・上記各工事に関連する設計監理、鑑定及び制作販売業務 ・観光施設、スポーツ施設、公園、道路の経営及び受託運営 ・観光施設、スポーツ施設、公園、道路の経営及び受託運営に関するコンサルタント ・生花、盆栽等の販売並びに業務 ・造花、花器、置物、玩具、室内装飾品、庭園園芸用品の制作販売 ・前各号に附帯する一切の業務 | | | | |
| 主な実績 | 【自治体・施設名】神奈川県・相模三川公園 【施設概要】イングリッシュガーデン、パークゴルフ場、軟式野球場、多目的グラウンド、噴水、大型複合遊具、鳩川遊歩道 等 【指定管理期間】H27.4.1～R4.3.31 | | | | |
| | 【自治体・施設名】千葉市・都市緑化植物園 【施設概要】バラ園、温室、みどりの相談所、見本園、日本庭園 等 【指定管理期間】R3.4.1～R8.3.31 | | | | |
| | 【自治体・施設名】東京都・夢の島熱帯植物館、夢の島公園 【施設概要】熱帯植物館大温室、喫茶、売店、展示スペース、映像ホール、バーベキュー広場、多目的コロシウム、陸上競技場 【指定管理期間】H18.4.1～H35.3.31(3期目) | | | | |
| 財政状況 (過去3年間について記入してください) | 年度 | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | |
| | 総収入(売上) | 10,541,702,278 | 11,539,694,499 | 10,639,551,291 | |
| | 総支出(支出) | 10,330,689,912 | 11,220,210,251 | 10,326,334,275 | |
| | 当期損益 | 211,012,366 | 319,484,248 | 313,217,016 | |
| | 累積損益 | 2,528,897,573 | 2,818,381,821 | 3,101,598,837 | |
| 応募に関する担当連絡先 | | | | | |
| 氏名 | 助川 靖(すけがわ やすし) | | 部署・職名 | コミュニティビジネス企画部 | |
| 電話番号 | 03-3453-2401 | FAX | 03-3453-2426 | 電子メール | y-sukegawa@amenis.co.jp |

目 次

I サービス向上について

| | |
|---|-------|
| 1. 指定管理業務実施に当たっての考え方、運営方針等 | |
| (1) 花き園芸及び植物に関する知識の普及を図るとともに、植物に親しむ場を提供する施設としての役割を踏まえ、指定管理業務全般を通じた総合的な運営方針及び考え方 | 5 |
| (2) フラワーセンターの主な保有植物の種類数の維持充実、ボリュームアップに係る方針及び考え方 | 11 |
| (3) 主な保有植物の種類数の減少防止に係る方針及び考え方 | 16 |
| (4) 四季を通じて花き等を観賞できる魅力の維持 | 23 |
| (5) 業務の一部を委託する場合の業務内容等 | 30 |
| 2. 施設の特性及び課題を踏まえた維持管理 | 31 |
| 3. 利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金 | |
| (1) より多くの利用を図るための取組 | 39 |
| ア 花き及び植物に関する知識を多くの方々へ普及する事業内容や取組 | 43-53 |
| イ 利用者に対して、花き及び植物に接する機会を提供する取組 | |
| ウ 花育の推進に係る取組 | |
| エ 展示植物に関する情報や知識をより分かりやすく伝える取組 | |
| オ より多くの利用を図るために行う広報・PR活動の内容等 | |
| カ 手話言語条例への対応 | 61 |
| キ 施設の魅力を向上させるために行う自主事業の内容 | 63 |
| (2) 苦情要望等への対応、利用料金 | |
| ア サービスの向上のために行う利用者ニーズ・苦情の把握及びその内容の事業等への反映の仕組み等 | 65 |
| イ 利用料金の設定及び減免の考え方 | 68 |
| 4 事故防止等安全管理 | |
| (1) 通常の指定管理業務を行う際の事故防止等の取組内容 | 69 |
| (2) 事故・不祥事等の緊急事態が発生した場合や安全管理の妨げとなりうる事業を認知した際の対応方針 | 72 |
| (3) 急病人等が生じた場合の対応 | 79 |
| 5 地域と連携した魅力ある施設づくり | |
| (1) 花き愛好者団体等の活動充実 | |
| ア 花き愛好者団体等の展示活動の促進及び支援に係る取組 | 80 |
| イ 新規団体の展示活動の開拓に係る取組 | 84 |
| (2) 地域との連携、地元企業への業務委託等 | |
| ア 施設の特性及び役割を踏まえた地域資源との協力体制の構築に向けた取組 | 85 |
| イ 地元企業等への業務委託による迅速かつきめ細かいサービスの提供に向けた取組内容 | 94 |
| 6 節減努力等 | 94 |

Ⅲ団体の業務遂行能力

7 人的な能力、執行体制

- (1) 人的な能力執行体制 95
指定期間を通じて効果的・効率的に指定管理業務を行うための人員の確保や配置等の状況
- (2) 業務の一部を委託する場合の管理・指導體制の状況 99
- (3) 指定管理期間を通じて安定して指定管理業務を行うための人材育成や職員の採用状況 . . . 100
- (4) 労働時間短縮の取組や職場のハラスメント対策など労働環境の確保に係る取組 102

8 財政的な能力

- (1) 財務状況 103

9 コンプライアンス、社会貢献

- (1) 諸規程の整備について 103
指定管理業務を実施するために必要な企業（団体）倫理・諸規程の整備、法令遵守の徹底に向けた取組の状況
- (2) 指定管理業務を行う際の環境への配慮の状況 105
- (3) 法定雇用率の達成状況等、障害者雇用促進の考え方と実績
 - ア 法定雇用率の達成状況等、障がい者雇用促進の考え方と実績 106
障がい者雇用状況（令和3年の6月1日現在）※
 - イ 未達成の場合の対応 107
 - エ 障がい者雇用促進の考え方と実績 107
- (4) 障害者差別解消法に基づく合理的配慮など、「ともに生きる社会かながわ憲章」の趣旨を踏まえた取組についての考え方 108
- (5) 手話言語条例への対応 109
- (6) 社会貢献活動等、CSRの考え方と実績、SDGs（持続可能な開発目標）への取組 . . . 111

10 事故・不祥事への対応、個人情報保護について

- (1) 事故・不祥事への対応 115
- (2) 個人情報保護 115

11 これまでの実績

- (1) 実績
大船フラワーセンターと類似の業務を行う施設等での管理実績の状況 118
- (2) 県又は他の自治体における指定取消しの有無 129

1. 指定管理業務実施に当たっての考え方、運営方針等

(1) 花き園芸及び植物に関する知識の普及を図るとともに、植物に親しむ場を提供する施設としての役割を踏まえた、指定管理業務全般を通じた総合的な運営方針及び考え方

ア 大船フラワーセンターの役割

1) フラワーセンターの歴史と背景

施設設置の背景と歴史

大船フラワーセンターは昭和37年に県内の観賞植物の生産振興と花き園芸普及を目的に整備されました。

県の農業試験場跡地に整備された歴史を背景に、大船系と呼ばれるシャクヤク、ハナショウブやその他を国内外から収集、栽培した植物の展示、生産の指導、優良種苗の試作検定、増殖などの役割を担ってきました。

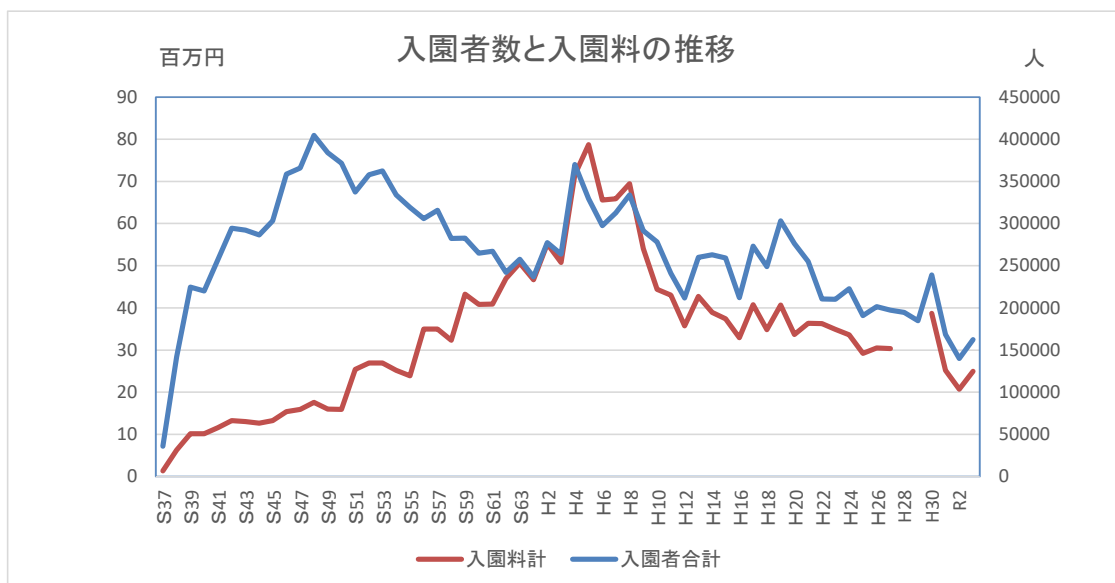
その後植物園機能が花菜ガーデンに移されたことにより施設名称から“植物園”が除かれ、平成28-29年度に行われた大規模改修により、観賞温室機能と関谷分園が廃止となりました。そして平成30年度より指定管理者制度が導入されました。

施設の現状

植物園としての機能は縮小しましたが、花卉園芸の歴史にとって今なお重要な役割を持つ施設であることには変わりはなく、大船系のシャクヤクやハナショウブといった他では見ることのできない貴重な植物を筆頭に、玉縄桜やバラ、シャクナゲ、温室の熱帯植物など、保有する植物の珍しさと豊富な品種数、一年を通じた多彩な講座・展示などの魅力を背景に、近隣地域や県民の皆さまはもちろん、県外の遠方から足を運ばれる花き愛好家のファンの方が多くいらっしゃいます。

今後も県民にとって重要な花きの普及啓発施設の役目を果たし続けていくことが望まれます。

入園者数および入園料収入の推移



※H28-H29 は入園料データなし

入園者数は昭和 48 年に最高の 40 万人、観賞温室がオープンした平成 4 年に 37 万人を記録して以降、毎年 25 万人前後で推移し平成 20 年以降は 20 万人程度で推移しました。リニューアルオープンした平成 30 年には 23.8 万人となりましたが、それ以降新型コロナの影響による閉園の影響もあり落ち込んできましたが、回復の兆しも見えています。依然多くの来園者を迎える施設であると考えます。

また、近年は入園者数と入園料収入がほぼ比例関係にあり、入園者と入園料収入の目標設定にあたっては、正の相関関係にあると考えます

2) 指定管理者制度下でのフラワーセンター

入園者の現況

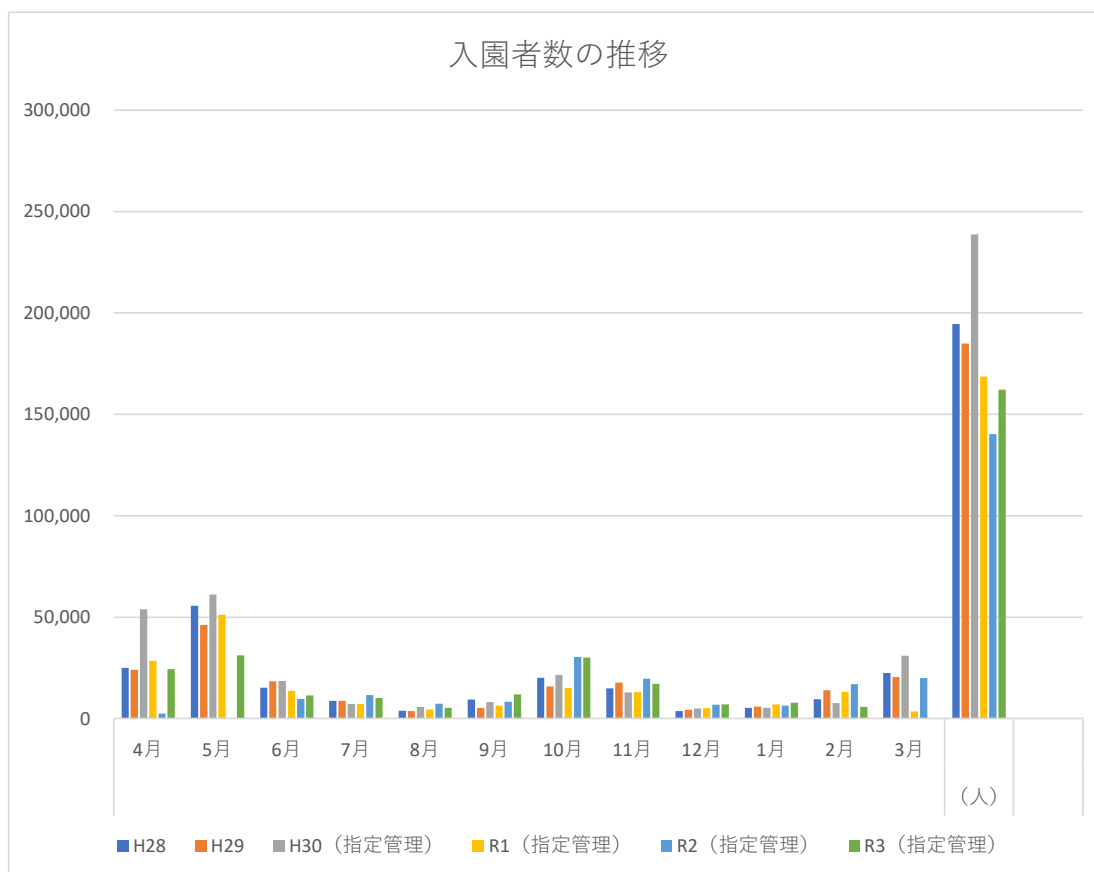
平成 30 年 4 月に指定管理者制度導入とともにリニューアルオープンし、同時に料金改定（年間パスポートの導入、シニア料金の設定など）が行われました。

令和 1～2 年度には新型コロナ対応として閉園を余儀なくされ入園者数は減少しましたが、令和 3 年度には回復基調となっています。

大船フラワーセンター 入園者数の推移

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|---------|
| H28 | 24,987 | 55,704 | 15,279 | 8,929 | 3,975 | 9,405 | 20,154 | 14,991 | 3,830 | 5,201 | 9,597 | 22,489 | 194,541 |
| H29 | 24,095 | 46,261 | 18,413 | 8,809 | 3,810 | 5,297 | 15,885 | 17,805 | 4,293 | 5,922 | 13,884 | 20,456 | 184,930 |
| H30(指定管理) | 54,041 | 61,196 | 18,669 | 7,329 | 5,833 | 8,219 | 21,552 | 12,878 | 5,033 | 5,273 | 7,725 | 31,030 | 238,778 |
| R1(指定管理) | 28,493 | 51,292 | 13,649 | 7,301 | 4,416 | 6,487 | 15,132 | 13,020 | 5,081 | 7,025 | 13,303 | 3,528 | 168,727 |
| R2(指定管理) | 2,446 | 0 | 9,816 | 11,624 | 7,428 | 8,301 | 30,524 | 19,729 | 6,804 | 6,450 | 17,014 | 20,054 | 140,190 |
| R3(指定管理) | 24,329 | 31,212 | 11,429 | 10,247 | 5,242 | 11,908 | 30,146 | 17,114 | 7,006 | 7,812 | 5,848 | 0 | 162,293 |

コロナ閉園あり
コロナ閉園あり
3月未集計



利用者・神奈川県の実業評価

平成 30 年度よりの指定管理者として、利用者アンケートや日々の入園者とのコミュニケーション、関係者ヒアリングなどを通じて様々な利用者の声を、また、管理運営業務全般について、神奈川県に対し毎月の月次報告を行っています。

それらを総合して神奈川県が行う事業評価において、特に「利用者満足度」の項目では3年連続S評価(極めて良好)を得ており、後述する様々な悪条件があったにもかかわらず、高い評価を得ていると認識しています。

| 年度 | 総合的な評価 | 個別項目 | | |
|--------|-----------|-------------|---------|-----------|
| | | 利用状況 | 利用者満足度 | 収支状況 |
| 平成30年度 | S:極めて良好 | S:極めて良好 | S:極めて良好 | S:極めて良好 |
| 令和元年度 | B:一部改善が必要 | C:抜本的な改善が必要 | S:極めて良好 | B:一部改善が必要 |
| 令和2年度 | B:一部改善が必要 | C:抜本的な改善が必要 | S:極めて良好 | B:一部改善が必要 |

【利用状況と収支状況について】

令和元年度は大きな被害をもたらした台風をはじめとする天候不順の影響による入園者減、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による施設閉鎖に伴う入園者減(※下記の県モニタリングのコメント参照)によるものです。

2か年続けてこのように災禍に見舞われた中でも、利用者満足度はつねに高い水準を維持しており、県からも最高評価のS評価を頂いています。

※県モニタリングコメントより

①新型コロナウイルス感染症が利用状況に与えた影響

4月～6月の閉園により、年間利用者数は前年度比で83.1%に減少した。

当該施設にとって、4～6月は年間利用者数の5割を占めるお客様が来園する期間であるため、閉園によって3か月の利用者数は前年同月比81,162人の減少となった。

しかし、再開園後の7月～2月の利用者数は、ハスの開花に合わせた早朝開園や秋のバラの夜間開園等の集客努力もあり、前年度比で150%の36,108人の増加となり年間利用者数の減少は抑制された。

したがって、当該施設はコロナ禍での県民の憩いの場としての役割を果たしたと評価できる。

コロナ禍での施設運営

令和1年度から現在にかけて、全国的な新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴うまん延防止等緊急措置および国の緊急事態宣言の発出を受け、本施設も感染拡大防止の観点から複数回にわたり閉園を余儀なくされました。そして、開園にあたっては、入園者の体温測定や消毒、密を避けるための呼びかけやイベントの自粛と内容の見直しなど、様々な措置を講じながらの運営を続けています。

コロナ禍での運営はこれからも続くものと考えます。そんな中であって、私たちはこれからの施設運営にあたり、以下のような観点がより重要であると考えます。

- 「集客性」=「施設の価値」という価値観や指標の再考
- 安全・安心の場の提供という大前提の元に、県民の新たなライフスタイルや価値観に寄り添う施設運営
- 県民の健康や生きがい作り、憩いの空間の提供により価値を見出すこと。

利用者アンケートの結果

○ 利用者アンケート調査結果(総合)

| | | | | | |
|--------------------|--------------------|--------|--------------------|-------|----|
| 指定管理者名 | アメニス大船フラワーセンターグループ | | | | |
| 施設名 | 大船フラワーセンター | 指定期間 | 2018.4.1～2023.3.31 | | |
| 実施期間 | 対象者 | 回答数 | 実施方法 | 備考 | |
| 2020/4/1～2021/3/31 | 利用者 | 1,744件 | 依頼による自由記入 | 8段階評価 | |
| 項目 | H30総合 | R1総合 | R2総合 | R3 | R4 |
| 総合満足度 | 4.1 | 4.3 | 4.4 | | |
| 樹木や植物の管理状況 | 3.9 | 4.2 | 4.4 | | |
| 施設(園路・建物・トイレ)の清潔さ | 4.1 | 4.3 | 4.5 | | |
| 園内や施設の安全度・利用しやすさ | 4.2 | 4.4 | 4.5 | | |
| イベント・展示会の充実度 | | | 4.0 | | |
| スタッフの対応 | 3.9 | 4.2 | 4.5 | | |
| 情報発信状況(HP・SNS・案内板) | 3.8 | 3.9 | 4.0 | | |
| 売店・カフェ等のサービス | | | 3.9 | | |

総合満足度をはじめとして、すべての項目において年々評価を上げています。

また、その他項目の「来園頻度」では「初めて」がR2で21.6%とR1の13.2%から大きくUPしており、これもコロナの影響で外出を制限されている中、癒しやストレス解消のために来園してくれる人が増えたものと考えられます。これらの方々を次の入園機会につなげるとともに、「イベント・展示会」を楽しみに来園してくれるお客様も多く、コロナが早く終息して「イベント・展示会」の再開により更なる集客増が期待できます。

3) フラワーセンターに求められる役割

神奈川県が定める大船フラワーセンターの主要な役割（主として以下①、②、⑤）に、私たちが指定管理者として認識する役割（主として以下③、④、⑥）を加え、管理運営方針につなげるべく、今後の大船フラワーセンターに求められる役割を以下のように整理します。

① 花き園芸及び植物に関する知識の普及

大船フラワーセンターは植物園の3つの役割（A.調査研究、B.栽培育種、C.普及教育）のうち、かつては農業試験場として①調査研究、②栽培育種の特色を色濃く持つ施設でした。その後昭和37年の整備を機に従来の働きに加えて③普及教育の役割が加わることとなり、観賞温室と分園の廃止を受けて③普及教育(啓発)の特色が強まりました。

【調査研究・栽培育種に取り組んできた歴史】こそ、今のフラワーセンターの特徴と魅力の根源であるといえます。引き続き【普及教育とこれに伴う花卉園芸文化の育成・植物保護への貢献】に重きをおいて施設運営を進めていく必要があります。

② 植物に親しむ場の提供

植物に身近に接し、親しむことには精神的な効用や健康増進など多くの効用があります。県民ならびに多くの方々に植物に親しむ場を提供することは本施設の主要な役割です。

③ 歴史に基づく植物園機能の継承

大船植物園時代からの歴史を十分にふまえ、かつてこの地で生み出された大船系の植物たちを栽培・展示しつつ、次世代に引き継ぎ、全国の植物園や専門家とも協力して県民の花き園芸文化の育成に貢献することも本施設に求められる大切な役割と認識します。

④ 地域コミュニティの醸成

植物に触れ、親しむことを通じ、人と人とのつながりが多く生み出され、本施設が地域コミュニティの場として愛され、生きがいや思い出の大切な場所として後世に引き継がれていくことも大切な役割と考えます。

⑤ 観光資源としての役割

大船フラワーセンターは神奈川県鎌倉市に立地し、観光資源としての可能性も高いと考えられます。神奈川県や鎌倉の周遊観光ルートに位置づけられるなどの役割も期待されます。

⑥ 持続可能な開発目標(SDGs)への寄与

神奈川県はSDGsに取り組んでおり、本施設においても、より積極的な取り組みが求められます。

イ 大船フラワーセンターの管理運営方針

1) 基本方針

大船フラワーセンターを、将来にわたり県民の財産として継承・発展させていくべく運営の道しるべを示すとともに、花やみどりに関し親しみやすい運営を行い、また時代に
応じた新たな取り組みにチャレンジし、県民や地域の期待にこたえます。

2) 管理運営方針



花しるべ ～花が導く出会いと学び～

●植物の維持・充実と学習機能の発展

現在保有・展示している貴重な植物を良好に育成し品種を保持し、今後も花卉の観賞を楽しみに施設を訪れる利用者の期待に応え続ける維持管理・運営に努めます。

さらに園芸講習や企画展示の開催など植物に親しみ学習するイベントも豊富に設けます。ただし、コロナ禍も踏まえた県民の新たな生活様式に対応すべく、内容を常に見直しつつ、一流の専門家が講習・実技指導・展示の企画・実施に携わることで学習機能を充実させ、またセルフ学習機能の充実も進めます。

●地域コミュニティの場として多くの方に親しまれるフラワーセンターへ

学習会やボランティア活動、パークサポーター健康づくりなど地域の方々の活動や生きがいの場となるよう一層の支援を図るとともに、周辺地域で活動する個人、法人、団体等との連携をさらに進め、地域に根ざした施設となるよう努めます。そして、フラワーセンターに足を運ぶ中で自然と植物に興味がわき、好きになる。既に多くいる植物好きの方以外にも愛される施設づくりを行います。

●これからのライフスタイルを踏まえたゆとりのある施設運営とSDGsへの寄与

新型コロナウイルスの感染拡大により、人々の生活も大きく変化してきました。これからはニューノーマルと言われる新たな生活様式が当たり前になると思われます。そんな中、本施設のような屋外を中心とする施設においても、ソーシャルディスタンスの確保や利用の分散化など、ゆとりをもって参加できる施設運営が求められます。運営にあたっては常にこのことを意識するとともに、一方で、人々の来園意欲への一助となるよう、観光拠点としてのPRも進めていきます。さらに持続可能な開発目標(SDGs)に寄与すべく、環境・エネルギー等に関する県の施策への協力と独自の取り組みの推進を図り、次の世代に安心してフラワーセンターを引き継いでいくべく、努めていきます。

(2)フラワーセンターの主な保有植物の種類数の維持充実、ボリュームアップに係る方針及び考え方

1) 主な保有植物の概観

大船系植物について

わが国の明治期の花き産業において重要な輸出品目に位置付けられていた園芸植物は、ユリ球根・ボタン・シャクヤク・ハナショウブ等です（鈴木，1971）。しかし当時の輸出先であったヨーロッパやアメリカではこれら植物の育種が始まっており、将来日本に逆輸入される懸念もありました。そこでわが国では国策としてこれら園芸植物の品種改良に力を入れることとなり、大船フラワーセンターの前身である神奈川県立農事試験場にて1906年よりボタン・シャクヤク・ハナショウブ・ユリ・ツツジの育種が開始されました（神奈川県立農事試験場，1925）。

その中でもシャクヤクとハナショウブについては、短い期間に盛んに育種が行われ、1913年に試験場長に就いた宮澤文吾氏により数多くの品種が発表されています。このような経緯により当園で作出された品種群は特に「大船系品種」と呼ばれています。関東大震災や太平洋戦争といったその後の社会の混乱により、作出されたシャクヤク・ハナショウブの品種の多くが失われてしまいましたが、災禍や戦禍を乗り越えて残存した品種はその後当園にて保存され、一般公開もされています。サクラの品種「玉縄桜」のように当園発祥として積極的に周辺地域に普及・拡散された品種もあります。

以下は特に大船系品種を代表するシャクヤクとハナショウブについての概観です。

◆シャクヤク

明治から大正にかけて、収集されたものや当園で作出されたものなど当時は600以上もの品種が存在したとされています。そのうち221品種が現在も当園に存在し、うち大船系品種は113品種（主な大船系品種：玉の台、荒波、大盃、面影、含笑、金雲、賜金、春色等）となっています。大船系シャクヤクはラクティフォリア種=*Paeonia lactiflora* Pall. の系統で、花卉の重なりが多い中晩生品種を中心に、バラエティーに富んだ形質を備えています。



◆ハナショウブ

大船系ハナショウブは、大正年間に神奈川県立農事試験場で作出され、宮澤文吾氏が発表した品種群を指し、当時発表された品種数はおよそ300といわれています。

大船系品種の交配の元となっているのは江戸系品種であるため、江戸系品種とは類似点も多いですが、国際化狙った独自の育種の産物である大船系品種は、江戸系品種にはない独特の優しい色合いと花容をもっています。このことから大船系として区別して呼ぶことが提唱されています。現在、当園には36の大船系品種が保存されています。



大船系以外の主な保有植物

当フラワーセンターでは計5,000種類以上もの花き類や花木を保有・栽培していますが、なかでもコレクションの核となる重要な植物は「主な保有植物」として取り扱っています。主な保有植物は上述のハナショウブやシャクヤクを含む8つの植物で911品種・系統が存在します。以下、ハナショウブとシャクヤク以外の主な保有植物について、概観を述べます。

◆サクラ

当園で育成された早咲きの‘玉縄桜’をはじめとする39品種が植栽されています。

◆シャクナゲ

当園で育成されたものを含む22品種が存在しています。

◆サルスベリ

県で育成された「ディア」シリーズ3品種を含む、36品種が存在します。

◆バラ

‘フレンドソニア’ ‘湘南ファンタジー’ ‘ブライダルソニア’等の神奈川県で育成された9品種を含む371品種があります。

◆ウメ

‘玉牡丹’ ‘大盃’ ‘武蔵野’ ‘思いの尽’など42品種があります。

◆ハス

主な保有植物リストに含まれるものとしては、大賀ハス、千弁蓮、皇居和蓮、友誼牡丹など64品種があります。



2) 主な保有植物の維持充実方策

前項で概観した主な保有植物に数えられる植物は、当フラワーセンターの植物コレクションの核であり、これまでの歴史や成り立ちを踏まえても、当フラワーセンターの魅力の目玉となるべき重要な存在と言えます。その魅力を維持充実するため、特に「ハス」「ハナショウブ」については次に掲げる具体的取組みにより、コレクションの拡充・ボリュームアップを行っていきます。

なお、主な保有植物に数えられる品種の消失防止のための具体的対策については次項「主な保有植物の種類数の減少防止に係る方針及び考え方」にて述べるものとします。

◆ハス

①ハスの品種拡充

「主な保有植物」として数えられるハスの品種は64ですが、このほかに、私たちが平成30年から現在までの間に各地より集めてきたハス品種がおおよそ100あります。かつての池を埋め立てて新しくできた玉縄桜広場におおよそ300鉢のハスを栽培し、夏のあいだ来園者の目を楽ませる当フラワーセンターの「名物」のひとつとなっています。

いずれは全国有数の品種コレクション数を誇るハス園を目指して、今後も品種の種類数の拡充を進めていきます。

現在は試験的に集めてきた品種を栽培していますが、今後は集めたハスの品種を同定したうえで、県に譲渡し、当フラワーセンターの主な保有植物のコレクションに加え、ボリュームアップをはかります。

■ハスの品種拡充に係る連携予定先

| 職名・氏名 | 経歴 |
|-------|---------------------------------------|
| 蓮興寺 | 静岡県沼津市にある日蓮宗の寺院。これまでに多くのハス品種を譲って頂いている |

◆ハナショウブ

①玉川大学田淵教授との連携

玉川大学農学部教授の田淵俊人先生は、ハナショウブを研究題材として扱われており、ハナショウブの園芸品種の分類や栽培技術について専門的知識をお持ちでいらっしゃいます。私たちは当フラワーセンターにおいてこれまでも田淵先生にハナショウブの栽培方法に関して助言を頂いているところではありますが、今後も継続してアドバイザーに就いて頂き、助言や協力を頂く体制でハナショウブの栽培管理に取り組みます。田淵先生のご協力の下で実施する具体策については以下に記述します。

②ハナショウブの品種同定

「主な保有植物」としてリストアップされているハナショウブ品種は 126 品種ですが、令和 3 年夏現在、一般公開の水路の地植えとして植栽してあるものが 124 品種、バックヤードに鉢植えでのみ生育しているものが 10 品種、合計で 134 品種が当園に存在する名札がついたハナショウブ品種の正確な数になります。

しかし、品種が作出されてから多くの人の手を介して栽培・譲渡を繰り返しているうちに、他品種とのすり替わりや取り違えが生じ、誤った品種名が引き継がれてしまうことが起こり得ます。

当園に現存するハナショウブ品種（大船系除く）は他園から種苗交換や購入によって持ち込まれたものと推測されますが、当園に導入された時点でニセモノである可能性も含め、ラベルに誤りが含まれている可能性は否定できません。とくに「古花」と呼ばれる戦前に作出された古い品種については、疑義を持たなければなりません。

正しい知識の普及を担うことが期待されている公立のフラワーセンターとしては、展示植物の名称の正確さを保つことも重要な課題です。したがって、令和 5 年度からの 5 年間の期間で、ハナショウブの専門家である田淵教授にアドバイザーとして、品種の真贋の鑑定（確認および再同定）を行って頂くことを進めていきます。

③ハナショウブの増殖

前述のように合計 134 品種が当園に存在していますが、中には 2、3 株しか植わっていないものや、バックヤードにのみ存在し鉢栽培で系統維持・品種保存されているものもあります。

今後、ハナショウブ植栽地における株の欠落なくすために補植を行っていくとともに、各品種とも地植え・鉢植えを合わせて 5 株以上は保持するよう努めるものとしします。

④ハナショウブの品種交換による種類数拡充

当園には現存していない大船系ハナショウブ品種のうち、田淵教授により玉川大学の圃場にて系統維持されているものが複数あることが確認されています。大船系品種の保存・系統維持と展示公開し魅力発信という目的を達成するための連携・協力のパートナーという関係として、玉川大学農学部と互いに保有していない大船系品種の交換を行い、当フラワーセンターにおける種類数の拡充をはかっていきたいと計画しています。

互いに分譲・品種交換を進めるに向けて、株分けのための株の生育充実に着手しています（令和 4 年 3 月現在）。

3) 主な保有植物の展示・公開方法

当フラワーセンターの主な保有植物の存在を多くの方に知ってもらい、来園者の方々に観賞して頂くために、展示・公開方法を工夫して実施します。

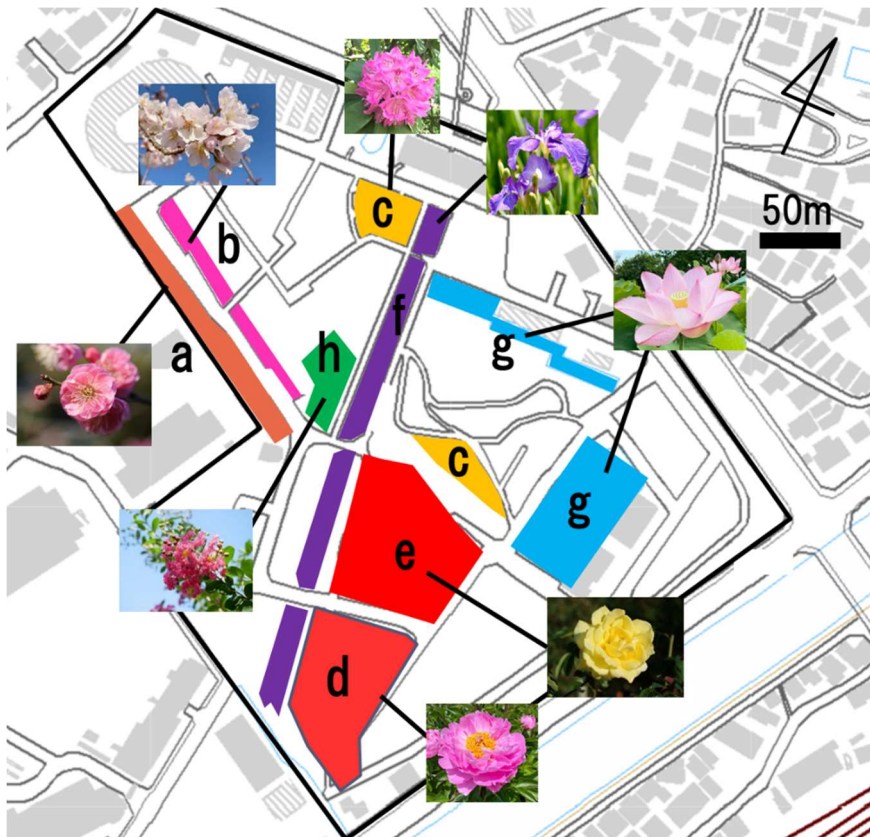
フラワーセンター全園にわたる各エリアの植栽管理内容と展示方法については後掲する『エリアごとの観賞花きの見せ方の方針』にて述べることにしますが、ここでは「主な保有植物」に係る展示・公開方法等の特記事項について記載します。

主な保有植物によるフラワーリレー

○主な保有植物の年間開花カレンダー

| エリア | 名称 | 使用種 | 開始時期 | 年間スケジュール(月) | | | | | | | | | | | | 備考 | |
|-----|--------|-----------------|------|-------------|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|--|
| | | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | |
| a | ウメ園 | | | ■ | ■ | ■ | | | | | | | | | | | |
| b | サクラ | 玉縄桜など | | | ■ | ■ | ■ | ■ | | | | | | | | | |
| c | シャクナゲ | | | | | | ■ | ■ | | | | | | | | | |
| d | シャクヤク | 大船系など | | | | | | ■ | ■ | | | | | | | | |
| e | バラ園 | | | | | | | ■ | ■ | ■ | ■ | | | ■ | ■ | | |
| f | ハナショウブ | 大船系、江戸系、肥後系、伊勢系 | | | | | | | ■ | ■ | | | | | | | |
| g | ハス | | | | | | | | | ■ | ■ | ■ | | | | | |
| h | サルスベリ | | | | | | | | | | | ■ | ■ | | | | |

■ 開花期



- a ウメ
- b サクラ
- c シャクナゲ
- d シャクヤク
- e バラ
- f ハナショウブ
- g ハス
- h サルスベリ

主な保有植物の展示公開方法に係る提案

◆ハナショウブ

現在ハナショウブが植栽されているのは園内を北東から南西方向に貫く水路の中で、品種ごとに整然と列植されています。

ハナショウブを美しく見せる景観としては、**水辺の広がりのある空間**（水田や自然の池沼など）が望ましく、将来的にはそのような空間へ改変していきたいと考えており、実施計画を立てています。

①修景的な水路への改修

中央部に蛇行して流れる水を配置し、水のほとりに盛り土をしてハナショウブを群生状に植栽することで、自然風な景観の中で咲き乱れるハナショウブを「見せる」植栽地をつくっていきます。

計画している改修工事は、期間のごく短い植替え適期（7月上旬以降梅雨明け前まで）に行う必要があることから、数年間かけて順次進めていくものとします。

②大船系品種の由来などについて掲示の充実

ハナショウブという植物についての概観、大船系品種群について由来などの解説を、誰でも・いつでも理解ができるような掲示の充実を行います。

◆ハスの公開

①ハス開花期の早朝開園実施

例年、来園者より大変好評頂いているハス開花期の早朝開園を引き続き実施します。

※7月上旬から8月上旬ごろの土曜、日曜および祝日の午前7時に開園。最盛期には平日も午前7時の開園を実施。

②金子先生（元 京都府立植物園園長）との連携

ハスガイドにおけるトピックについて、ハスに関する専門知識をご教示して頂く予定です。なお、ハスに関する専門知識については、園長自身も会員である「蓮文化研究会」からもご教示を頂くことを想定しています。

③遠方からの鎌倉のパッケージツアーを検討

当フラワーセンター主催で、当フラワーセンターをはじめ神奈川県内の花の名所を巡るパッケージツアーを実施することを計画検討しています。

◆バラ園

①外部アドバイザー山本健生氏による指導（継続）

河津バガテル公園の園長を長年務めた経験もある、ローズガーデナーの山本健生氏に指導を仰ぎ、修景方法や管理方法について適宜助言を頂きながら、より魅力あるバラ園をつくっていきます。

◆主な保有植物全般に係る展示公開方法

①「園長さんぽ」による解説

主な保有植物の魅力を広く知って頂くため、毎月開催している「園長さんぽ」において、見ごろを迎えている主な保有植物について取り上げ、参加者に対して詳しい解説を行います。

②夜間開園

年間5回の夜間開園の実施を計画していますが、このうち3回は主な保有植物が主役となるものです。植物を引き立てるライトアップで、夜の植物の姿を観賞して頂けます。

■主な保有植物を見せる夜間開園

| 実施時期 | 主役となる植物 |
|------|---------|
| 5月 | バラ |
| 10月 | バラ |
| 2月 | 玉縄桜 |



■夜間のバラのライトアップ

(3) 主な保有植物の種類数の減少防止に係る方針及び考え方

主な保有植物の維持に係る考え方・方針

大船フラワーセンターの長い歴史のなかで大船系をはじめとした「主な保有植物」は収集あるいは作出され、保存・維持されてきました。

その歴史を重んじて、多種多様な品種を貴重な遺伝資源として後世まで伝承していくことが求められます。私たちはその目的を達成するために、次に挙げる課題を抽出し、具体的な対策を講じていきます。

①植物栽培を複数職員で担当し、組織として技術・技能の共有・保持

技術職員個人の技能に依存し任せきりになるのではなく、栽培技術が職員間で共有され、引継ぎが可能となる組織体制の確立が重要です。私たちは植物栽培を複数職員で担当することで、異動や退職があった際でも栽培技術が円滑に引き継がれる人員体制を組んでいます。

②固有品種の保存に係るリスク分散

大船系品種（ハナショウブ・シャクヤク）はこれまで基本的に「門外不出」として扱われてきたために、系統保存のリスク分散が行われてきませんでした。大船系ハナショウブについては専門家である玉川大学農学部田淵教授と産学連携の体制を組み、玉川大学の圃場での系統保存を行って頂くことでリスク分散をはかります。また、植物園協会を通じて、他植物園との品種交換も検討します。

③品種ごとの特性を踏まえたきめ細かな栽培管理により枯死を防止

花容や花色などを追及して育成された栽培品種は一般に、原種と比べて性質が弱く、病気への抵抗性が弱いといった特性があります。そのために、品種特性（品種による育てやすさの違い等）を踏まえた栽培管理計画の立案を行う必要があります。各植物においてその道の達人である専門家（外部アドバイザー）に指導を仰ぐことで、高度に専門的知識を要する栽培管理にも取り組みます。

枯死等による種類減少防止の実行方法

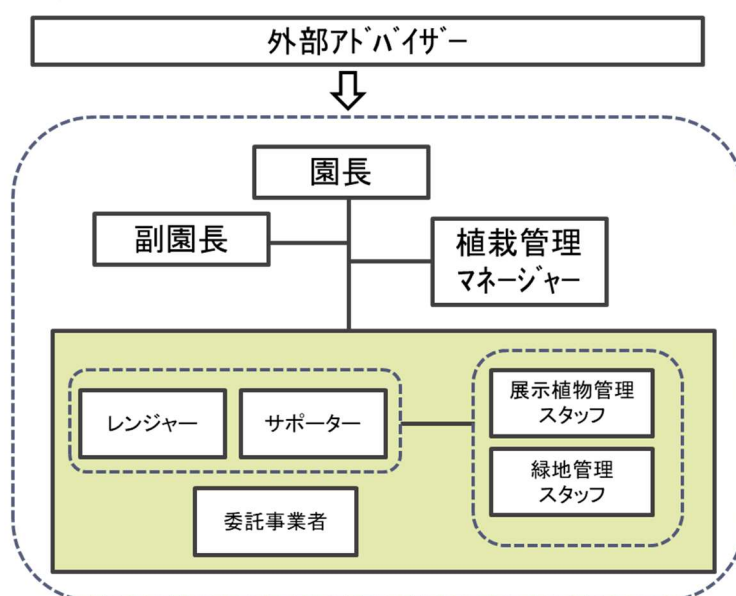
◆執行体制（専門家の配置、栽培スタッフの配置）

植物の管理および展示に関する業務全般（主な保有植物の栽培管理・展示を含む）に係る業務執行体制については、下記の通り行います。

植栽管理マネージャーには類似施設等での植物管理実績の豊富な人物を充て、花木・鑑賞花き・庭園・芝生管理の指導監督にあたります。

また、各部門（展示や普及啓発活動、ハナショウブ栽培・品種維持拡充、バラの栽培および修景、ウメ・シャクヤク・シャクナゲの各植物に係る栽培技術）における専門家にアドバイザーを委嘱し、指導・監修・協力・助言等を頂くことにより、管理水準の維持、改善策の実行を担保します。

○人員体制（植物の栽培管理および展示）



①植物管理スタッフの人材育成（研修）の実施

フラワーセンターにおける多種多様な植物の栽培管理を行うことは、高度な技術を必要とします。これを適切に行うためのスキル確保とステップアップのため、主に植栽管理に関わるスタッフを対象として、下表の内容にて研修を行い、人材の育成に努めます。

| 大船フラワーセンター植物管理スタッフ 研修計画 | | | | |
|-------------------------|--|---------------------------|-------|----------------------------------|
| 名称 | 研修対象者 | 研修実施者 | 実施時期等 | 内容/時間 |
| 植物管理基礎研修 | 展示植物管理スタッフ 緑地管理スタッフ | 園長、植栽管理マネージャー | 業務開始時 | 植栽管理作業内容・方法1.5H 安全管理1.5H |
| ハナショウブ等の品種・栽培基礎研修 | 植栽管理マネージャー 展示植物管理スタッフ その他本社スタッフ等 | アドバイザー 玉川大学 田淵教授 | 随時 | ハナショウブ等栽培の留意点、 品種の鑑定 ほか |
| バラ管理研修 | 植栽管理マネージャー 展示植物管理スタッフ その他本社スタッフ等 | アドバイザー やまもと土づくり研究所 山本氏 | 随時 | バラの管理手法 |
| 植物管理各論 園芸植物栽培手法 | 植栽管理マネージャー 展示植物管理スタッフ その他本社スタッフ等 | 各専門家 | 随時 | 展示植物の種類・識別、 播種・さし芽等の実技 など |
| 展示・普及啓発活動 に関する研修 | 園長 植栽管理マネージャー 展示植物管理スタッフ | 日本植物園協会等による講話 | 随時 | 植物園としての普及活動の考 え方、企画内容に係る監修 ほか |
| 類似施設への研修 | 植栽管理マネージャー 展示植物管理スタッフ | 訪問対象施設との意見交換等 | 冬期間 | 他植物園等を訪問し、管理状況 や手法の確認、意見交換等 |

②人材育成（技能の伝承）

代表企業の日比谷アメニスには現場で採用したスタッフの登用の仕組みがあります。組織としての安定的な運営体制の担保のためにも、フラワーセンターの展示植物管理スタッフのうち能力や意欲の高いスタッフについてはステップアップの機会を与え、スタッフのもつ技能を尊重し活躍してもらいたいと考えます。

■スタッフ登用のイメージ

| 時期 | 業務開始時 | パークスタッフ検定受検等 | | 昇格試験等 |
|------|----------|--------------|-------|-----------|
| | → | | | |
| 技能段階 | 技能の獲得 | 技能の保有 | 高度な技能 | 広汎かつ高度な技能 |
| 身分 | パート・契約社員 | 専任職 | 高度専任職 | 総合職社員等 |

◆各植物の年間管理スケジュールと管理のポイント

a シャクヤク・ボタン

| 年間主要作業項目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|----|----|-----|----|-----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| シャクヤク | | | | | | | | | | | | |
| 状態 | | | 芽だし | | 開花期 | | | | | | | 休眠期 |
| 芽かき・摘蕾 | | | | | | | | | | | | |
| 薬剤散布 | | | | | | | | | | | | |
| 花ガラ取り・除草 | | | | | | | | | | | | |
| 鉢植管理 | | | | | | | | | | | | |
| 施肥 | | | | | | | | | | | | |
| 植付け・株の更新 | | | | | | | | | | | | |

管理のポイント

- ・豪華で大きな花を咲かせるために芽かき、花後の摘花を適切に行う。
- ・近年アオドウガネ幼虫による根の食害が目立つため、ダイアジノン等に対応する。
- ・アオドウガネの被害株は早めに発見し、株分け更新により原状回復する。
- ・鉢植えは2年に一度植替えを行う。
- ・肥料を多く必要とする植物である為、適正な時期の追肥、寒肥を行う。追肥は化成肥料、寒肥は堆肥、油粕、骨粉を行う。

b ハナショウブ

| 年間主要作業項目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|----|-----|----|----|-----|----|----|----|-------|-----|-----|-----|
| ハナショウブ | | | | | | | | | | | | |
| 状態 | | 芽だし | | | 開花期 | | | | 株の充実期 | | | 休眠期 |
| 薬剤散布 | | | | | | | | | | | | |
| 除草 | | | | | | | | | | | | |
| 地植・鉢植管理 | | | | | | | | | | | | |
| 施肥 | | | | | | | | | | | | |
| 株分け・植付け | | | | | | | | | | | | |

管理のポイント

- ・ 展示育成とは別に、バックヤードで鉢植えにて品種保存に取り組む。
- ・ 薬剤散布は春の若芽が伸びた頃に、生長点を食害するメイガやヨトウムシ防除のために行う。
- ・ 施肥は花前、花後、9月に化成肥料を行う。
- ・ 芽数が増えた大株は花後の株分け植替えを行う。
- ・ 開花が進み、終花が出始めたら花ガラの摘み取りを行う。
- ・ 株元の雑草は手抜き除草とする。

c サクラ

| 年間主要作業項目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|----|----|-----|---------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|
| サクラ | | | | | | | | | | | | |
| 状態 | | | 玉縄桜 | ソメイヨシノ他 | | | | | | | | |
| 剪定・枝枯れ撤去 | | | | | | | | | | 樹形整枝 | | |

管理のポイント

- ・ サクラの木は老木化による傷みもあり、毎年数本ずつの補植を行っていく。
- ・ 通路に出ている枝は日常点検で確認撤去する。

d シャクナゲ

| 年間主要作業項目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|----|----|----|-----|----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|
| シャクナゲ | | | | | | | | | | | | |
| 状態 | | | | 開花期 | | | | | | | | |
| 花ガラ取り | | | | | | | | | 摘蕾 | | | |
| 芽かき・摘蕾 | | | | | | 芽欠き | | | | | | |
| 剪定 | | | | | | | | | | | | |
| 施肥 | | | | | | | | | | | | |

管理のポイント

- ・ タネが大きくなる前に花ガラ取りを必ず行う。
- ・ つぼみの多く付いた株や弱っている株は摘蕾を行う。
- ・ 強く伸びた頂芽等は剪定し樹勢調整を行う。
- ・ 寒肥は完熟牛糞堆肥、油粕、骨粉とし、追肥は化成肥料とする。

e サルスベリ

| 年間主要作業項目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|
| サルスベリ | | | | | | | | | | | | |
| 状態 | | | | | | | | 開花期 | | | | |
| 殺菌消毒 | | | | | | | | | | | | |
| 剪定 | | | | | | | | | | | | |

管理のポイント

- ・うどん粉病・アブラムシの発生に注意し蔓延しないうちに対応する。
- ・剪定はこぶ状にならないように自然樹形に行う。

f バラ

| 年間主要作業項目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------------|---------|--------|----|----------|---------|--------|----|----|--------|---------|-----|-----|
| バラ | | | | | | | | | | | | |
| 状態 | | | | | ← 開花期 → | | | | | ← 開花期 → | | |
| 薬剤散布 | | | | ← 薬剤散布 → | | | | | | | | |
| 施肥 | | ← 寒肥 → | | | | ← 追肥 → | | | ← 追肥 → | | | |
| 剪定・誘引・支柱補修 | ← 剪定 → | | | | | | | | ← 剪定 → | | | |
| 植付け | ← 植付け → | | | | | | | | | | | |

管理のポイント

- ・夏剪定は10月のイベントまでに咲き揃うよう、50日前までに行う。
- ・黒星病の発生期間中は雨の翌日に殺菌を行う。
- ・冬剪定後石灰硫黄合剤の散布（樹名札にビニール養生）を行う。
- ・つるバラ、オールドローズ系、木バラの順で冬剪定を行う。
- ・寒肥は一株当たり牛糞堆肥5リットル・油粕200g・骨粉200gを基準とする。
- ・冬剪定後、株元に敷き藁を行い、土跳ねによる病気の発生を抑える。

g ウメ

| 年間主要作業項目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|---------|----|--------|----|----|-------------|----|----|----|-----|----------|-----|
| ウメ | | | | | | | | | | | | |
| 状態 | ← 開花期 → | | | | | | | | | | | |
| 施肥(寒肥) | ← 寒肥 → | | | | | | | | | | | |
| 剪定 | | | ← 剪定 → | | | ← 徒長枝切り戻し → | | | | | ← 樹形整枝 → | |

管理のポイント

- ・アブラムシ・カイガラムシは日常点検にて早期発見、ピンポイント消毒で対応する。
- ・しだれ梅の剪定は、やわらかくしだれる樹形に剪定を行う。
- ・日照が少ないエリアで花付きが悪い品種もあるため、寒肥も含め肥培管理行う。

h ハス

| 年間主要作業項目 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------|----|-------------|----|---------|----------------|---------|----|----|----|-----|-----|-----|
| ハス | | | | | | | | | | | | |
| 状態 | | | | | | ← 開花期 → | | | | | | |
| 植付け・植替え | | ← 植付け・植替え → | | | | | | | | | | |
| 補給水 | | | | ← 補給水 → | | | | | | | | |
| 施肥 | | ← 元肥 → | | | ← 追肥1回/2週間程度 → | | | | | | | |

管理のポイント

- ・ 浮き葉が3枚程度出始めたら追肥。既定混合の肥料を決めた量で行い、土に混合しない。
- ・ 鉢数が多いため2月から植替えを行う。植替えの際は札落ち、取り違えに十分注意する。
- ・ 3日に一回は補給水を行う。
- ・ 元肥は既定混合の物を黒土に水を入れ混合する。

◆大船系ハナショウブの保持

①強健さの指標と、希少性の指標の2つを加味して保護の優先順位を策定

大船系ハナショウブは、品種によって、性質が強く枯死のリスクが小さいものと、性質が弱く枯死のリスクが大きいものがあります。また、他植物園等に存在がある普及種で、譲渡・購入などにより代替株の入手可能性のあるものと、当フラワーセンターでしか保有していない固有の品種とがあります。そこで、大船系の36品種について、強健さの指標と、希少性の指標の2つを加味して、重点的に保護すべき優先順位を策定します。

②株数を増やし、複数箇所です系統維持栽培

「強健さ」「希少性」の2つの指標を加味して絶滅リスクが大きいと判断される品種については、保有株数を増やす、2か所以上に分けて植え付けるなど、慎重なリスク分散をはかることで、枯死・絶滅を回避します。また、地植えのみでなく、バックヤードにおける鉢植えによる品種保存の拡充を行います。

◆ハナショウブ以外の主な保有植物に係る品種保存のリスク分散

大船フラワーセンターの保有品種（特に大船系品種）については‘玉縄桜’などの一部例外を除き、これまでは積極的に園外で品種の保存が行われることはありませんでした。保有品種の一部を「危険分散」の観点から複数の箇所にて保存することが望ましく、栄養繁殖（挿し穂・株分け等）により殖やした株を配布する活動も検討していきます。

| 危険分散方法 | 対象植物 | 方法 |
|------------------------------|-----------------|--|
| グループ指定管理等現場での品種保存 | ハナショウブ、シャクヤク ほか | 同一指定管理者による各現場（圃場等）での品種保存 |
| 植物園協会を通じての品種保存（ナショナルコレクション等） | サクラ ほか | 植物園協会のナショナルコレクション制度等を活用しての全国の植物園での品種保存 |

①自然災害発生時の緊急対応（台風後の塩害等）

造園施工技術のノウハウを有し、植物の状態を判断できるスタッフを複数名現場に配置します。そのため、自然災害発生時にはただちに園内の確認を行い、異常があれば即時に適切な対応を行うことで、被害を最小限に抑えます。

②樹木医による診断

日比谷アメニスグループには樹木医が数多く在籍しています。必要時には樹木医資格をもつ社員が応援に駆け付け、樹木の診断を行うことで、即時の対応を行います。

【緊急を要する事態での即時対応実績】 ～台風後の玉縄桜の復旧～

令和元年9月の台風15号の被害により、玉縄桜の原木が根元から傾いて倒れる被害がありました。私たちが行った緊急措置として、根が乾かないようシートで覆うとともに、根の一部が切断されてしまったのに応じて地上部のボリュームを減らすため枝を半分以上落とすなどの処置を施しました。その結果、翌春には無事開花に至り、復旧させることに成功しました。復旧した玉縄桜原木は、現在でも生育を続けています。



(4) 四季を通じて花き等を観賞できる魅力の維持

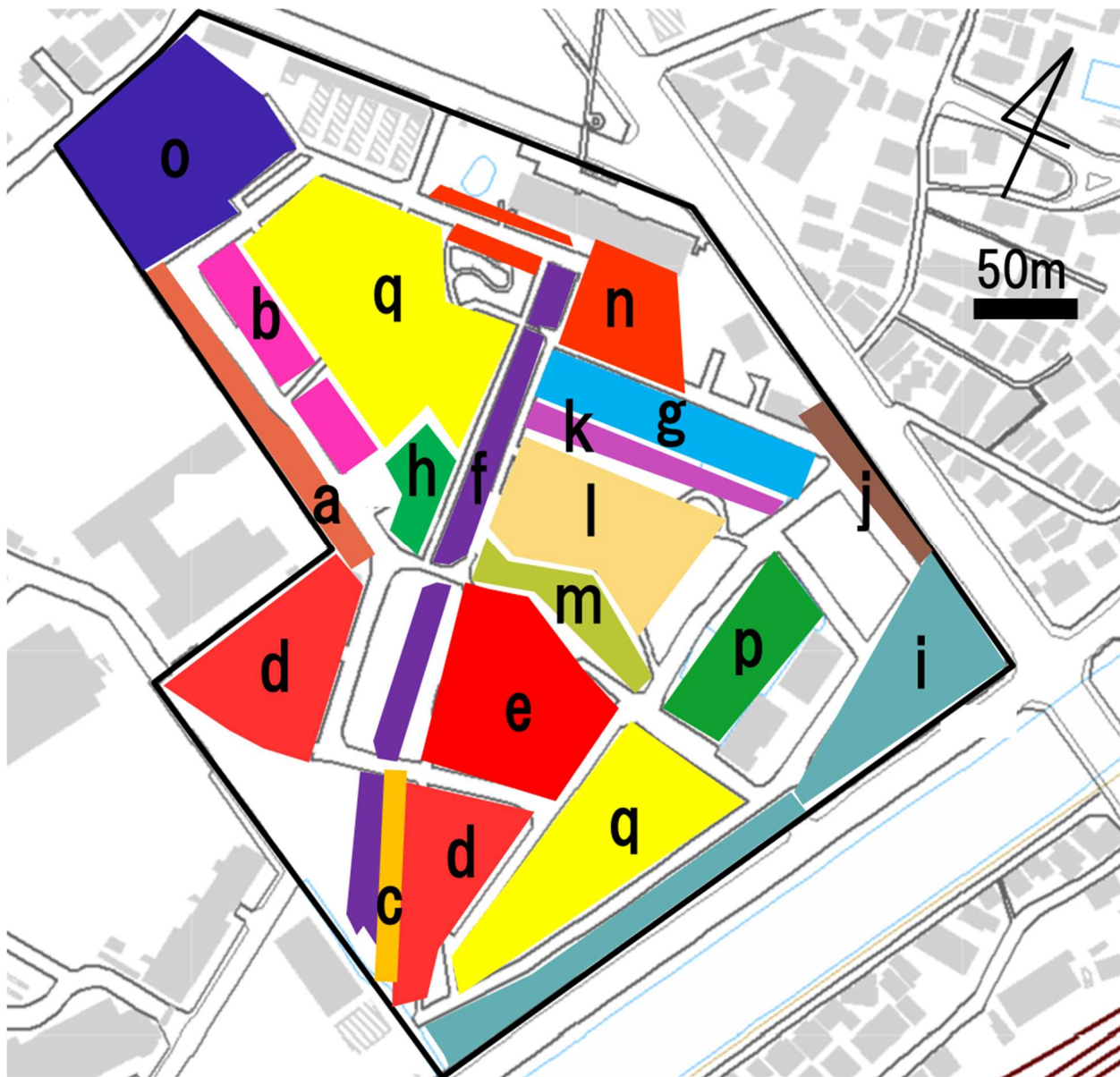
エリアごとの観賞花きの見せ方の方針

当園は、ボタン園・シャクヤク園やバラ園、各種花木類、草花や花壇など多種多様な植栽エリアがあり、四季折々に花を楽しむことができます。私たちは植物園の管理者として「花しるべ」役を果たすべく、花いっぱいの魅力あふれる植栽・展示空間で、施設の価値をより一層高め、多くの来園者を迎え入れたいと考えます。

私たちは平成30年より当園の指定管理者として管理運営に携わる中で、これまでに十分な現地調査を行うとともに、地域や花き園芸業界、植物園協会との関係性を構築し強化しつつあります。

すでに着手しているものも含めて、改めてエリアごとの管理・展示の方針を定めるとともに、具体的な計画の立案を以下に示します。

なお、実施にあたっては事前に県との協議を行い、承認を得て行うものとします。



| 記 | エリア名称 | エリアの概況 | エリアのつくり方の方針 | 具体的な管理の手段・方法 |
|---|--------------------|--|--|--|
| a | ウメ園 | 45品種50本のウメのほか、下草にムスカリ、スイセンが植えこんである。花が見られるのは早春のシーズンに限定している。 | 玉縄中学校側の擁壁側に、アジサイ（ハイドランジア）の植え込みを作り、春だけではなく初夏にも楽しめるエリアとする。 | ・数年にわたってアジサイの補植を行う。 ・ウメの具体的な管理手法は主な保有植物の管理に関する「管理のポイント」の項目を参照。 |
| b | サクラ 林床ボーダー | サクラの大径木と苗木植栽があり、グランドカバーにはギボウシ園芸品種、クリスマスローズ、スイセン、シランなどが植えられて四季を通じて宿根草の花が咲くエリアとなっている。 | 地表にはサクラの根も張り土壌が固くなっており、土壌改良を進めながら、花を間近で見ることが出来る観察路を作っていく。 | ・観察路を設置する。 ・バックヤードにて園内発生枝葉をすき込んで作っている土を使い、土壌の改良を行う。 |
| c | ヤマアジサイ園 (新設・新称) | ジャクヤク園の奥に2021年に作ったヤマアジサイの展示エリア。鎌倉の愛好団体と協働で植え付けを行い、日本各地で採集された種を九州から北海道まで順に植えてある。 | 2022年ではまだ苗の段階だが、成長に合わせ園路整備、樹名板の取り付けを行い、来園者に見せる「見どころ」の一つとしていく。 | ・夏場の散水、除草等の管理を行い、2024年には十分な開花を目指す。 ・ジャクヤク園とも接しているため、発生枝のチップを敷きこんだ仕様とする。 ・開花時期は、愛好団体によるガイドボランティアなども予定している。 ・樹名板の設置、種名・品種名、産地などがわかる札を設置する。 |
| d | ジャクヤク園 ボタン園 | 大船系品種を含むジャクヤクが植栽される、当フラワーセンターとしてメインの植物展示エリア。約200品種2,000株がありジャクヤク園としては全国一の規模である。 | 大船系のジャクヤクの保存と大船フラワーセンターのメイン植物として良好に開花させ来園者に広く知っていただき、その豪華さ美しさを見ていただく。 また、ジャクヤクの開花後も花畑として楽しめる演出を行う。 | ・ジャクヤクの具体的な管理手法は主な保有植物の管理に関する「管理のポイント」の項目を参照。 ・ジャクヤクの開花後のうね間にマリーゴールドやヒマワリの播種を行い夏の暑い時期にも花畑を楽しめるように育てる。 |
| e | バラ園 | シーズンには多くのバラファンや写真家が訪れる、メインのエリア。原種、オールドローズ、四季咲きのモダンローズ、つるばら等、合わせて約350品種1,200株が系統ごとに分かれて植栽されている。神奈川県で育成されたバラなどいくつかのコーナーもあり、芳香種が多いのも特徴。 | 系統ごとの樹形や開花性質等をしっかり理解し、本来の特徴を引き出す管理を行う。春と秋の開花イベント時に美しく咲き揃うように、景観的特徴に合った手入れを行う。また、バラ園アドバイザーなどの意見も参考に、集客力のあるバラ園の維持に努める。 | ・バラの具体的な管理手法は主な保有植物の管理に関する「管理のポイント」の項目を参照。 |
| f | ハナショウブ園 | 「大船系」の他に「江戸系」「肥後系」「伊勢系」があり、栽培数は約130品種1,300株。 | 大船系の品種群は地植え、鉢植えの両面から保存に努める。地植えハナショウブ園エリアは、景観的な見せ方も重要となり堀部に蛇行した水路部を設け自然な景観を作り、開花シーズンには水路に水を流す。 | ・ハナショウブの具体的な管理手法は主な保有植物の管理に関する「管理のポイント」の項目を参照。 |
| g | スイレン池 | スイレンが植栽されている修景池。株の増殖が速く、夏場に水面が極端に狭くなると景観が悪くなる時がある。写真スポットとしても利用されている。 | 水辺の癒し空間として、また写真スポットとして、景観を大切に管理を行う。また、白系のアルバの花が大半を占め色が単調であるため、色とりどりのスイレン品種を補植し多様性を見せる。 | ・スイレンの浮き葉の面積を3分の1程度に抑えたとともに、冬季休眠期に間引きを行う。 ・温帯スイレンを10品種程度まで増やす。 ・グリーンハウスにて増殖した熱帯スイレンを6月から10月まで池の中で栽培する。 |
| h | サルズベリ園 | 神奈川県による育成品種を含む、サルズベリの品種の植栽エリア。下草は球根植物のゾーンとネモフィラやオルラヤなどの一年草のゾーンとに分かれている。 | サルズベリは強く剪定することで花は多くなるが、剪定した箇所がこぶ状に膨らんでしまい、野趣のある植物とのなじみが悪くなるため、やわらかい枝ぶりに育てていく。 | ・剪定は前年伸びた枝を10cm程度残して切る。 ・開花前には当年伸びたひこばえを刈り取る。 ・下草の一年草は、10品目程度まで種類数を増やし、ネモフィラ、オルラヤ、リナリアなどを毎年播種する。 |
| i | もみじ山 | カエデ属の品種展示のエリアと山野草の下草植栽があり、スプリングエフェメラルの仲間（セツソウ、キバナセツソウ、スノードロップ、アマナなど）を撮影に来る来園者が多く人気のエリア。 | 日陰の植生展示として季節の宿根草・山野草の自然な生育具合を見せようとするため、高木、中木、地被類それぞれに合った管理を行う。 | ・春咲き宿根草の充実のために補植を行う。 ・秋咲きのキョウロウホトトギスなどの宿根草の充実のための補植を行う。 ・山野草の生育環境維持のため落葉樹の適度な枝刈りを行い開花を促進させる。 ・日陰で育つ植物の提案を野草名札などとともに行う。 ・山野草の種類によって残すもの、除草するものなど分けた作業を行う。 |
| j | 宿根ボーダー 花壇 | ハーブ、宿根草をベースにした花壇。 | 宿根草、ハーブ、日陰に強い植物などの植栽をベースとし、新しい品種を加えながら花壇とし、来園者に対して家庭園芸の見本や参考にしていただけるように見せていく。 | ・新しい品種の宿根草やグランドカバーなどを適宜追加植栽し、解説とともに展示する。 ・メンテナンスのコツや利用法（ハーブ類）もあわせて紹介する。 |
| k | ハス池花壇 | スイレン池とハス池に沿った細長い花壇。池越しに見える場所の為、背の高くなる花をベースに自然彩を持たせた花壇。 | 播種や苗の植付け、花や実の収穫等を、体験イベントの形で来園者にも提供することを通じて、植物と親しむ事のできる花壇としていきます。 | ・春はヤグルマギク、ジニア、夏はキバナコスモス、ヒマワリ、トウガラシ、秋はコスモスなど摘み取りできる品種を選択する。盛りを過ぎたタイミングで摘み取り体験を行い、次の花壇の準備へ移行する。 ・表層土が現れ生育が悪化している花木を回復させるため、バックヤードにて作っている発生枝葉のリサイクル土を敷き込み土壌改良を進めていく。 ・樹勢の落ちている樹木は、世代交代を行うため、花木等の補植を進める。 |
| l | 花の築山 | サクラの品種やジャクヤクなどの花木が植えられた築山となっている。経年による表土の流失と元来の下層土不良のため、花木の根が深く伸びず浅く広がっており、根が浮いてしまったり、倒木となったりしている。 | サクラ、ジャクヤク、ハンカチノキ、モクレン類など花木を見せようとするため、樹勢を維持し開花を促進させる。 | ・表層土が現れ生育が悪化している花木を回復させるため、バックヤードにて作っている発生枝葉のリサイクル土を敷き込み土壌改良を進めていく。 ・樹勢の落ちている樹木は、世代交代を行うため、花木等の補植を進める。 |
| m | 森の小道 | 山野草の自生環境を再現しているようにつくられているエリア。 | すべての雑草を抜くのではなく、見せる山野草に影響のない雑草は残したり、優占する種類の勢いを抑えたりしながら共存する環境を見せようとするように管理する。 | ・山野草に特に詳しいリーダーの下、専門の作業チームによる雑草の管理作業を行う。 ・山野草の補植は、日照、地面湿り気、周辺の植物などを考慮し植え付ける。 |
| n | エントランス エリア | 歳時記・年中行事やイベントに合わせ、来園者の写真スポットやワクワク感を抱いてもらう導入エリア。 | 玉縄桜やハス、バラ、ジャクヤクなど当フラワーセンターの目玉となる花を花壇に織り交ぜて見せ場とします。また、ハロウィン、クリスマス、正月などの歳時記・年中行事に合わせた装飾を、花壇と融合させ、魅せるエントランスをつくっていきます。 | ・玉縄桜、バラ、ジャクヤク、バラ、ハナショウブ、ハスの展示用の鉢を作り、花壇に織り交ぜて展示する。 ・ハロウィンのカボチャ、クリスマスのツリーなど、歳時記・年中行事に合った鉢植えを栽培し季節ごとに展示する。 |
| o | グリーンハウス | 現在無加温のガラス室となっている。私たちはこれまで4度の冬季の無加温ガラス室での熱帯植物管理を経験し、植物の種類ごとの耐寒性とポテンシャル（回復力）を熟知している。 植物の生命力の逞しさと、敷き藁や幹巻、また一部を簡易的にビニールで囲うといった私たちの工夫により、耐寒性の弱いヒスイカズラ、ウツボカズラなどの越冬にも成功している。 | これまでの経験の蓄積を活かし、冬季の適切な保護を行いながら熱帯植物を育てていく。 | ・冬場は各所に保温エリアを設け植物を低温から守り、自力で越冬できるレベルの環境で管理する。 ・気温低下を防ぐため敷き藁を行う。 ・熱帯花木、バナナ類はワラや緩衝材の幹巻を行う。 |
| p | 玉縄桜広場 | 2018年のリニューアル時に新設された、玉縄桜が列植された広場。玉縄桜も徐々に大きくなり見ごたえが出ている。玉縄桜の開花時期には開園時間を延長し夜桜ライトアップイベントを開くなどし、この地で誕生したサクラを楽しんでいただくエリア。リニューアル以前は池があり、当時のイメージを持っている来園者も多い。 | 鉢でつくった花ハス300鉢を設置し、早春のサクラシーズンだけでなく夏の間も涼しげな水辺の花が咲く光景を楽しんでもらう。 | ・ハスは毎年早春に植替えを行い、芽出しから開花、冬枯れの姿に至るまで一年を通してその姿を見ていただく。 |
| q | 芝生広場 | 後述「芝生広場の高水準なエバーグリーン」参照 | | |

観賞植物の充実

◆アジサイの植栽充実

①日本地図の配置で原種ヤマアジサイのコレクションを植栽

令和3年度に、鎌倉アジサイ同好会のご協力により、シャクヤク園の奥に全国津々浦々の原種ヤマアジサイの苗を集めて植栽しました。今後、開花を目指して苗を育成するとともに、種類のさらなるボリュームアップ、ならびに観賞のための園路の整備を進めていきます。

②さまざまなアジサイのコレクション

アジサイについては、新たな当フラワーセンターの目玉のコレクションとなることを目指しています。変わり種を含め、今後さらに内容のボリュームアップをはかっていく計画です。

■今後導入を予定しているアジサイの品種

| 種類 | 特徴 |
|----------|-------------------------|
| 赤花品種 | 花色がpHに依存せず安定した赤色を示す |
| アマチャ(甘茶) | 葉に甘味がありお茶にされる、ヤマアジサイの変種 |

③アジサイ近縁種の充実

アジサイに近縁な観賞花木であるカシワバアジサイ、アメリカノリノキ（アナベル）、ノリウツギ（ミナヅキ）などを寄せ集め、アジサイの仲間の多様性を見せる植栽エリアをつくっていきます。

◆ハスのコレクションの充実

平成30年のリニューアルオープン以降、かつてのスイレン池が埋め立てられ、「玉縄桜広場」が新設されています。私たちはこの広場にハスコレクションの鉢植えを配置することで、かつての水景を思い起こさせる、この場所の記憶の伝承にふさわしい展示方法をとっています。

今後は、栽培するハスの鉢数および種類数を増やし、全国でも有数の品種数を誇る植物園を目指してハスのコレクション充実をはかっていきます。

現在は試験的に集めてきた品種を栽培していますが、今後は集めたハスの品種を同定したうえで、県に譲渡し、当フラワーセンターの主な保有植物のコレクションに加え、ボリュームアップをはかります。

展示植物の種類管理

①目録に基づく種類の管理

エリアごとに保有している植物について変更があった際には目録を更新するとともに、年に1度、リストに基づいて展示植物の状態を確認し、目録の取りまとめを行います。

②経験豊富なスタッフによる定期的な目録チェック

植物の種類と同定チェックや、APGの分類体系へのアップデート逐次行っていきます。

③草刈りの際の展示植物の保護

草刈りは、「景観上、展示植物の観賞の障害になる場合」および「栽培植物の生育を阻害する場合」において必要な作業です。しかし、展示植物を誤って刈り取ってしまったり、害をもたらしていない雑草まで取り除くような非効率な管理を行ったりしないためには、展示植物に関する知識や緑地管理に関する知識が必要です。

そこで私たちは、草刈りの目的を最も効果的に達成するために、緑地管理の業務経験豊富であり、かつ展示植物について知識を有する緑地管理スタッフを配置し、草刈り作業の細かい指導を担当します。

④名称の正確性の担保に努める

植物園として、植物名や栽培品種名などの表示する名称の正確性の担保は非常に重要です。また、類似した栽培品種が多いものや、産地情報をもつ原種植物などは一度タグ（名札）を消失してしまうと再同定が困難になってしまいます。名称の混乱や誤りを防ぐために、以下の取組みを行います。

- ・鉛筆で名前を書き込んだラベルを土中へ深く埋め込む、等の具体的な対策により、タグ（名札）の紛失を防止
- ・植物の知識を有する複数職員によるタグのチェック実施
- ・同定の正確性に疑義が生じたものは、植物園協会などを通じて専門家に鑑定を依頼

エントランスゾーンの展示・修景

エントランスゾーンは、園内に入場する全ての人が通行し、かつ最初に目にする展示となります。

来園者をあたたかく迎えるにふさわしい、常に明るく花いっぱいのエントランスづくりを実現し、おもてなしの心を体現することで、来園した人に期待感を抱いてもらえるような工夫を凝らします。

- ・歳時記に合わせた装飾（七夕、ハロウィン、クリスマス、迎春、バレンタインデー等）
- ・四季を通じて花いっぱいのエントランスづくり
- ・目玉となる「主な保有植物」の鉢植えを花壇に織り交ぜて展示 など

樹木の管理手法

【独自のファンクショナルトリム手法の導入】

樹木の効用を最大限に発揮することを目的として、樹木の役割と機能を明確に位置付けた上で管理手法を導き出す、「ファンクショナルトリム」を用いた管理を行います。

園内主要樹木について、管理目標タイプと管理手法を明確にした、効果的な管理を行います。

手順1：目標タイプの設定

これまでの緑地等の植栽管理の経験から、A～Kの目標タイプを設定しています。本公園での実施にあたり、現場状況に応じて目標タイプに追加・変更を加えます。

■目標タイプ一覧

| | 名称 | 機能 |
|---|-------------|---|
| A | 緑陰-見通しタイプ | 緑陰を提供しつつ、一定の高さまで下枝を下げ、園地の見通しを確保するもの(公園基本) |
| B | 緑陰-高木環境林タイプ | まとまった樹林地として大きな緑陰空間を確保するもの(樹林地利用基本) |
| C | 遮蔽植栽タイプ | 暴風、防音、目隠し等の遮蔽機能を重視するもの |
| D | 花見-観賞タイプ | 花見、花木の観賞に供するタイプ |
| E | 生垣タイプ | 生垣又は高垣タイプ |
| F | 単木-日本庭園タイプ | 一本ずつ、又は樹種毎に伝統的な樹形維持を行う者(日本庭園型) |
| G | 列植-街路樹タイプ | 公園のヴィスタやランドマークとして、画一的な樹形を目標とするもの |
| H | 環境保全林タイプ | 生物多様性や周辺環境の維持・緩和効果を期待するもの(樹林地基本) |
| I | 果実育成タイプ | 主に果実の栽培を目的とするもの |
| J | 特殊タイプ | 特殊な用途や生態などを有するもの、その他 |
| K | その他 | 目標タイプ分けをしない樹林(エリア) |

手順2：ファンクショナルトリム設定シートにデータを記入

対象樹木（樹林）、求められる機能や役割、目標タイプ、管理手法を設定シートに入力します。設定にあたってはグループの樹木医が立ち合います。

フラワーセンターの樹木管理においてもこの手法を用い、品種保存の観点とは別に樹木の目標タイプと管理手法を明確にし、効果的な管理作業を行います。

(株)日比谷アムニス

ファンクショナルトリム設定シート

優先度の特に高いものは◎、高いものは○

役割・機能(優先度の高いものは◎、役割があるものは○)

管理方法

調査日、記入日:
公園等名称:
記入者及び立会者:

| 位置 図No | 樹木名称、樹林名 称等 | 防風 | 防塵 | 延焼 防止 | 緑陰 | 目か くし | 見通 し | 景観 | | | | | 生物 多様 性 | その他の機能 | 目標タイプ | 剪定方法 | | | | | | | | | 間 伐・ 伐採 | 施 肥 | 捕 捕 | 害 虫 | 病 害 | 受 粉 | 播 種 | 其 他 | | | | | | | | | |
|-----------|----------------|----|----|----------|----|----------|---------|----|----|----------------------------|-----------------------|------------------|---------------|--------|--------|------------------|---|------------------|--------|--|--|-----------------------------------|--|---|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---|---|---|------------------|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 花見 | 紅葉 | シ ン ポ ル 単 木 | 生 殖 ・ 刈 込 | ヤ ゴ 取 り | | | | 下 枝 ろ し | 樹 形 つ り ・ み ど り 摘 み 等 | 胴 切 り 他 | 其 他 | 枝 抜き、 枝 透 かし (葉 張 り 重 視 型) | 枝 抜き、 枝 透 かし (葉 張 り 重 視 型) | 芯 止 め (高 制 制 型) | 芯 止 め (樹 形 重 視 型) | 〇 | | | | | | | | | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | ケヤキ | | | | ◎ | | ○ | | | | ○ | | | A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | クロガネモチ | | | | | | | | | | ◎ | | | A | 〇1回/2年 | | | | | | 〇1回/2年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | シラカシ | ○ | | | | | ○ | | | | | | | C | 〇1回/2年 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | クスギ、コナラ他 | | | | ◎ | | | | | | ○ | | 活用型樹林地 | B | | | | | ○ | ○ | | | | | ○(択伐) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | クロマツ(3本) | | | | | | | | | | ◎ | | | F | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○要確認(マツノマダラカミキリ) | | | | | |
| 6 | ソメイヨシノ(12本) | | | | ○ | | | | ◎ | | | | | D | | ○必要に応じて | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○要観察 | | | | | |
| 7 | ユリノキ(78本) | ○ | | | | ○ | | | | | | | | G | 〇1回/2年 | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

無加温グリーンハウス内の植物の管理と展示

熱帯植物を無加温で冬越えさせるポイントとして、主幹や根系が寒さで傷まないように管理を徹底することが重要です。植物種ごとの耐寒性に応じて、敷き藁や幹への藁巻き、寒冷紗の使用などの措置により保温を行っています。厳しい低温が続く時などは必要に応じて赤外線ヒーターにより地温を保つ手法も取り入れています。

その結果として、無加温になってから4回目の冬を迎えた現在でも熱帯・亜熱帯の植物は元気に生育し、季節に応じて開花や結実を見せ、来園者の方々から好評を得ています。



バックヤードの活用方法

バックヤードを下記のように活用し植物管理を行います。

| 名称(仮称) | 形態・機能等 | 活用方法 | 特記事項 |
|--------|--|--|----------------------|
| 旧栽培温室 | 無加温のバックヤード温室。 植栽棚等が設置される標準 タイプ 5棟 | ・展示用鉢物の栽培・保管室 ・上記以外のコレクションの栽培・ 保管室 ・園内植栽用草花類の栽培室 ・球根・種子等の保管室 | バックヤードツアー等 の実施も検討 |

| | | | |
|------------|---------------------|--|--|
| 裏庭バックヤード | 大型倉庫、無加温大温室、作業員詰所 | <ul style="list-style-type: none"> ・園内植栽用草花類の栽培室 ・球根・種子等の保管室 ・機器、用具、資材等置場 ・作業員詰所 ・展示用鉢物の栽培・保管室 ・上記以外のコレクションの栽培・保管室 | |
| ポタン園バックヤード | 堆肥化施設、堆肥づくりに係る機材置き場 | <ul style="list-style-type: none"> ・園内発生材の堆肥化 ・植物剪定枝等の集積場、植栽用土等の攪拌、集積場 | |

芝生広場の高水準なエバーグリーン

フラワーセンター、特に芝生広場については屋外の多様な植栽を楽しむため、また景観を楽しむの基礎植栽として、美しい芝生の維持が必要です。私たちは表にある通りの高水準の管理目標を明確に定め、それに伴う年間の実施内容と回数に基づき芝生地を維持を行います。特にスパイクングと同時に冬芝（ペレニアルライグラス）を播種し、冬期間においても常緑の芝生広場を維持します。

補植や芝切りなど管理水準に定めのない項目についても必要に応じて実施します。

また、芝生管理水準については専門家による定期的な訪問診断（6回/年）を行い、スパイクングや播種などの専門的な作業を専門業者に委託することにより、確実な管理水準の維持を実現します。

大船フラワーセンター芝生管理目標/管理水準

| | | 芝生広場 | その他の芝生地 |
|-------|---------|----------------|--------------|
| 種別/性格 | 修景性 | 高い | 高い |
| | 利用率 | 並～高い | 並 |
| | 動的使用 | 多い | 少ない |
| | 芝種 | ティフトン、コウライ | コウライシバ |
| 管理目標 | 刈込高 | 15～20mm | 20～30mm |
| | 芝高 | 70mm以下 | 80mm以下 |
| | 雑草混入 | やや容認 | 容認 |
| | 茎葉の密生度 | 高いが一部空隙容認 | 一部空隙容認 |
| | 施肥(窒素量) | 13g/年目安 | 0～10g/年 |
| | エアレーション | 山中式土壤硬度計20mm | 山中式土壤硬度計20mm |
| | 目砂掛け | エアレーション実施時 | エアレーション実施時 |
| | 補植 | 回復が早急に必要の場合 | 回復が早急に必要の場合 |
| 作業内容 | 芝刈 | 16-20回 | 5回 |
| | 集草 | 16-20回(芝刈りと同時) | 5回(芝刈りと同時) |
| | エアレーション | 2回 | 実施なし |
| | 目砂掛け | 2回(目砂・種子) | 実施なし |
| | 施肥 | 2回(活性剤+液肥) | 実施なし |
| | 除草(人力) | 必要に応じて実施 | 実施なし |
| | 病虫害防除 | 発生時対応 | 発生時対応 |
| | 灌水 | 随時 | 随時 |
| | 補植 | 必要に応じて | 必要に応じて |
| | 根切り | 必要に応じて | 必要に応じて |



生態系および生物多様性に配慮した植栽管理や家庭園芸の推進ならびに普及啓発

当フラワーセンターが地域の生態系や生物多様性向上のために果たすことができる役割は、「教育・啓発」と「配慮の実践」の2段階に分けて考えることができます。

植物園として見本が示せるよう、環境配慮の管理を実践するほか、企画展示や体験教室などを通じて、地域における健全な生態系機能を保全することの重要性や、生物多様性の価値について、普及啓発をすすんで行っていきます。

◆生態系および生物多様性に配慮した植栽管理

① I P M (総合的病虫害・雑草管理) の考え方に基づいた植栽管理

I P M (Integrated Pest Management) とは、様々な防除手段を適切に組み合わせることにより、環境負荷を低減しつつ病虫害・雑草の発生を経済的被害以下に抑える管理を行う考え方です。

私たちはI P Mの考え方をベースとし、**薬剤使用に依存するのではなく、植物の健康状態の入念な観察、虫害の発生初期の捕殺など、適切な手法を組み合わせることで環境への配慮と経済合理性を両立した管理**を実施します。日常的な管理について、どの植物に対して具体的にどのようなことに気を付けて管理を行うかについては、エリアごとの管理の項目に記載しています。

②多様な生物の生息環境の創出・保全に向けた取組み

多様な生物が生息できる環境づくりに取り組み、生物相が豊かになれば、天敵(益虫など)の存在により花き類の害虫や蚊などの発生を抑制するはたらきが期待できるなど、多くのメリットが想定されます。私たちは、園内に生息する生物の存在を意識した管理を実践します。以下に一例を示します。

・ハス池、スイレン池はイトトンボ類など多くの生物の生息環境となっているため、ホルモン系薬剤を使用しないなどの配慮の実践

- ・コンテナ型ビオトープやハス植栽鉢における水生生物の生息場所の創出
- ・野鳥が好む実のなる植物の植栽
- ・自然環境への侵略性が著しい植物を導入しない など

◆生態系および生物多様性に配慮した家庭園芸の普及啓発

①園芸における「益虫」という考え方の普及

企画展示や体験教室などの中で、園芸・ガーデニングにおける「益虫」という考え方を広く普及し、生物多様性の恩恵や生態系に対する理解につながることも期待します。

②コンパニオンプランツの展示普及

コンパニオンプランツとは、目的の作物のそばに植えることで害虫忌避効果等の良い影響をもたらす植物のことです。積極的に活用し、展示を行います。

(5) 業務の一部を委託する場合の業務内容等

1) 県内企業への発注を優先

一部の業務の委託や補修・修繕等を発注する際は、公共施設として地域経済への貢献の必要性の観点から、優先的に県内企業への発注を行います。

2) 発注先の選定方法

①県内事業者への優先的な業務発注

県立施設の指定管理者として地域経済への貢献の観点から、外部委託は優先的に県内企業に発注します。特に県内に本店を置く事業者は、県外に本店を構え県内に事業所を擁する者（準県内事業者）よりも高い優先度で発注を行うものとします。

②複数社からの見積もりをとりコストダウン

外部委託先選定の際には、複数社から見積もりをとりコストダウンを図ります。

③社会的信用や社会貢献度の高い企業・団体への発注

管理運営に係わる業務発注は公共事業の一環であると捉え、委託先の企業選定においては関係法令の遵守、社会保険加入の有無、類似施設での業務実績やCSR活動等を確認します。

④障害者就労施設等からの優先的な物品調達

県の「障害者雇用企業」に登録された企業や、「障害福祉サービス事業所等」を物品調達先や一部業務の委託先として積極的に登用します。

⑤適切な資格・免許を有する専門業者に発注

法定点検や廃棄物処理等の委託にあたっては必要な資格・免許を有する業者であることを確認のうえ、委託します。

⑥委託業務の作業進捗・水準の指導、監督、検査

委託した業務の指導、監督、検査について、植栽管理に係わる委託業務は日比谷アメニス、施設設備管理に係わる委託業務は相鉄企業の定める基準に基づき適切に実施します。

⑦反社会的勢力への発注の防止

委託先が反社会的勢力に係わりのないことを確認のうえ業務を発注します。業務発注に際して反社会的勢力より何らかの圧力を受けた場合、速やかに共同事業体各社及び県に情報を共有のうえ、フラワーセンター管理事務所と日比谷アメニス本社組織がともに対応にあたり、不適切な業務発注や資金提供等は一切行いません。

3) 委託予定の業務

日常的にきめ細かく臨機応変な対応を可能にするため、業務の実施に際しては雇用スタッフによる直営作業を基本とします。主要な業務の一括した外部発注は行いません。ただし、効率性の観点および専門知識や免許・資格の必要性の観点から、一部業務については委託とします。委託で行う業務内容および委託を行う理由については、別紙で添付している「様式4 委託予定業務一覧表」に示しています。

2. 施設の特性及び課題を踏まえIoT技術を活用した維持管理

1) 維持管理の基本方針

～本施設の特性に見合った人材を社内から広く募り登用を行います～

●企業方針

相鉄企業は、昭和 36 年の創業から培われてきた施設管理の経験と技術・ノウハウを駆使し建物総合管理のプロフェッショナルとして、また、相鉄グループの一員としてすべての人に快適な環境をお届けするために誠実に情熱をもって「大船フラワーセンター」の業務に取り組んでまいります。

大船フラワーセンターは開園から既に 50 年以上が経過しており、施設の著しい老朽化が見られます。現行指定管理者として建物の状態を詳しく把握していることはもちろん、建物総合管理のプロフェッショナルとして、定期的なメンテナンスだけでなく、施設不具合の些細なシグナルも見逃さず、IoT 技術を活用して日々の予防保全、計画的な修繕などにより、安全・安心・快適、かつ永く愛される施設を県民の皆さまに提供いたします。



●清掃の取組方針

日常清掃業務は、適切に業務を行うとともに、今まで本施設で培ってきた「豊富な経験やノウハウ」を活かしてきめ細やかなサービスを心掛け、利用者の皆様が気持ちよく利用できる環境をつくりあげます。

コロナ感染防止対策の観点から利用者の触れる部分は消毒も行います。

●設備の取組方針

本施設の設備員は、豊富な経験と知識、ノウハウを有した従業員を継続して配置します。設備員を配置することで、「日常の点検や修繕」をはじめ「専門業者による保守点検・修理の立会」まで総合的に管理し、安定した業務品質を確保するとともに、建物状況を把握し、スピード感を持った対応を行ってまいります。巡回点検時には、計測機器だけではなく、音や臭いなど五感を最大に活用し異常を早期に発見することで事故を未然に防止します。

●警備の取組方針

警備員及びスタッフが施設巡回を定期に実施することで事故・犯罪防止に努めていきます。また、必要に応じて来館者の声掛けを行うことで不審者に対する牽制効果を狙い、更なる防犯強化に取り組んでいきます。なお、声掛けは、接遇マナーを十分に配慮し、丁寧な対応を心がけます。

■相鉄企業の人材育成

相鉄企業は、「お客様の感動を実現できる人材の育成」を目指し設備・警備・清掃・管理の各業務に従事する社員の技術力アップと昨今のサービス業務に必要な「対人力」「業務遂行力」の強化を図るため、研修の専門部署を設け、社内講師による研修を随時実施しております。

平成 30 年に大和市に新たに竣工した相鉄企業「大和研修センター」では、特に社員の技術力を向上させるために、「体験・実感・スキルアップ」をテーマに、最新の実機設備を導入し、今までよりさらに実務に則した研修を注いでいます。

設備・警備・清掃・管理等の職能別教育、職場における安全のより一層の向上を図る安全教育を実施し、人材の育成に尽力しております。

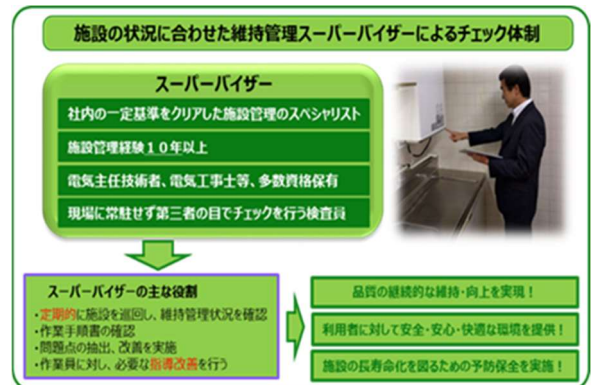


大和研修センター

2) 執行体制

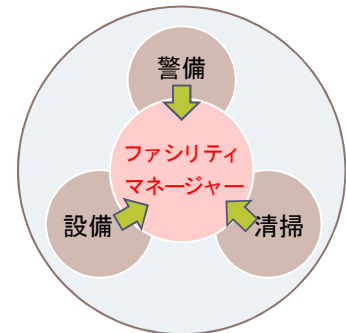
① スーパーバイザーによる適切な維持管理状況のサポート

維持管理業務において、施設の目的・築年数・使用状況等の条件により行うべき作業内容は施設ごとに異なり、施設の特性に応じた維持管理をする必要があります。設備スタッフが定期的な施設の巡回点検を行い、相鉄企業では一定の品質水準を確保します。そのうえで施設ならではの求められる対策・手法を見極め、安全性・快適性・省エネ・コストバランスの最適化と修繕計画を立案するために、公共施設をはじめ、多数の業務経験を有するスーパーバイザーが現地を定期的に確認し、現状の検証→提案→改善→確認を行います。



② 維持管理業務の統括を担うファシリティマネージャーを配置

清掃、施設、警備の維持管理業務全体および委託業務を統括する立場として類似施設で業務実績のある相鉄企業の正社員を常勤で08:30～17:00のシフトで配置しております。ファシリティマネージャーは維持管理業務全般の作業計画立案、進捗確認、品質管理、委託業務の指導監督を行うとともに、各職員の業務範囲に捉われず状況に応じてフレキシブルな対応を指示、実現します。



■フレキシブルな対応の例

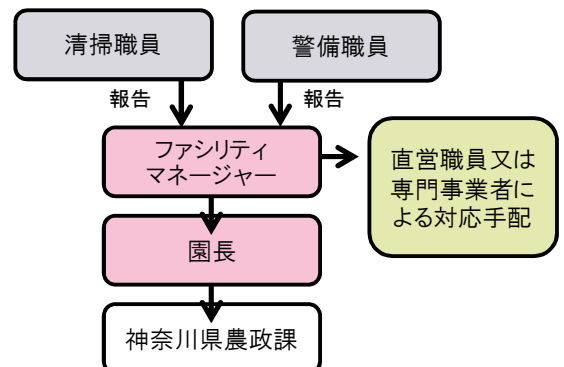
- ・台風接近時…植栽管理職員、警備職員だけでなく、清掃員へも土嚢の設置を指示し迅速な安全対策を実現
- ・雨天時…汚れやすい入口部分の重点清掃を清掃員だけでなく警備職員にも指示し、迅速な対応を実現 など

③ 造園・土木施工管理経験を持つ園長（責任者）が必要に応じてファシリティマネージャーをサポート

水道管の老朽化・植物の干渉を原因とする園路下配管の漏水対応や、植物の生育不良・新規植栽時など、公共施設管理にあたっては造園・土木工事に係わる知識を要する対応が必要になる場面が多くあります。責任者に配置予定の日比谷アメニス社員は都立夢の島公園において同様の対応実績が多数あり、フラワーセンターにおいてもファシリティマネージャー協力して適切に対応にあたります。

④ 施設設備に関する異常発生時の対応

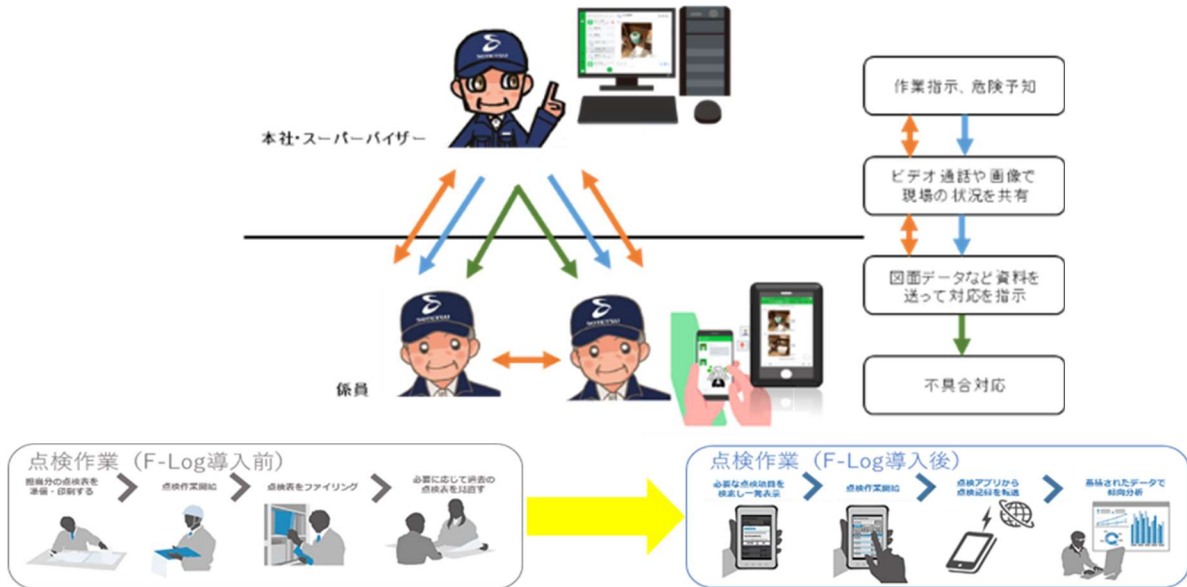
清掃作業中及び巡回中に異常箇所を発見した場合、各職員はファシリティマネージャーに状況を報告します。ファシリティマネージャーは報告を受け次第状況を確認し、園長に報告します。合わせて直営職員による対処を行い、必要に応じて専門業者に修理等の手配を行います。



⑤ 「Facility Log® (略称 : F-Log) 」 (ファシリティログ) の導入

オムロンソーシアルソリューションズ(株)と相鉄企業(株)で共同開発した「Facility Log® (略称 : F-Log) 」 (ファシリティ ログ) を導入し、巡回点検の効率を向上させます。巡回点検時に不具合状況などをリアルタイムにビデオ通話などで、本社または、スーパーバイザーに確認することができ、対処時間の短縮が可能となります。

保守点検や巡回点検での点検結果及び修繕記録のデータを蓄積し、設備機器等の特徴を把握することで的確な予防保全に努めます。



① 清掃、警備等各直営職員の配置 詳細はP●, ●参照

3) 清掃業務

① 毎年研修を実施した清掃スタッフが日常清掃を実施

毎年法定研修を受講した清掃員を午前 7:00~16:00 に 2 名配置します。清掃員も施設職員としての認識をもち、「おもてなしの心」で利用者からの問合せ等も誠実に対応を行い利用者満足の向上につなげています。

また、「身だしなみに気を付ける」「スタッフ同士でお互いのチェック」「お客様優先で作業する」など、作業中のマナーに気を付けていることが、高い評価に繋がっています。



② 7:00 からの早朝清掃作業を実施

開園直後から施設が清潔な状態で来園者をお迎えする為に、開園前の清掃作業に重点を置きます。開園前の 7:00 から清掃を開始することで、エントランスや本館、レストハウス、トイレなど特に利用が多く見込まれる箇所を中心に早朝清掃作業を行い、利用者を快適な環境でお迎えします。

③ 臨機な対応

職員間で施設の状況を共有し、「汚れたらすぐにキレイに！」をモットーに機動的な清掃を行い、快適な環境を利用者に提供いたします。

③スタッフバックの携帯

お客様との距離が近い清掃業務では空間を清潔に保つ技術力のもとより“おもてなしの心”をもって来園者に対応することが大切です。特に大船フラワーセンターは外国人を含め様々な方が来園するため、清掃員についても柔軟な対応が求められます。清掃員が施設の案内などにも対応できるよう、常に施設パンフレットや周辺地図等を備えたスタッフバックを携帯し、来場者へのホスピタリティ溢れる対応と即応性を強化します。



スタッフバック ※写真はイメージ

④感染症発生を防止する清掃の実施

園内におけるデング熱・ジカウイルス等の感染症を媒介する蚊の発生に対し、蚊の発生しやすい5月から10月の期間においては、未然の防止策を講じます。また、新型コロナウイルス感染防止対策として利用者が触れる箇所を拭き上げる作業も行っています。

- ・雨水枦や側溝等、雨水が溜まりやすい場所への害虫成長抑制剤の投与
- ・計画的な排水施設の清掃および施設内の汚泥回収による雨水滞留の防止
- ・本館、レストハウスの害虫防除や生息調査を年2回実施し、施設の安全を確保
- ・環境にやさしい、除菌効果のある洗剤※を用いて拭き上げ作業

※商品名:「スペースショット 万能環境クリーナー」

ウイルス対策に有効とされた界面活性剤「脂肪酸ナトリウム」0.3%含有、生分解 90%以上(28日)、水洗い不要で作業効率と節水効果を向上、アメリカ・ヨーロッパの安全規格で認定された植物性洗剤

⑤落葉期における清掃人員の強化

平常時は巡回、立哨、案内、拾掃きにあたる警備員が落葉対応に重点を置いたシフト体制で対応にあたり同時に、ファシリティマネージャーも落葉対応にあたることでコストを抑制しながら早急な対応が可能です。

⑥トイレ清掃の実施回数

トイレ清掃は巡回清掃を含め1日2回を予定していますが、利用状況に応じて清掃回数を増やすなど臨機応変に対応します。

また、トイレの巡回清掃については、常に清潔を保てるよう清掃員同士でチェックを行うとともに、衛生消耗品等にも不足がないよう管理を行っています。

⑦トイレのコーティング清掃

日常清掃時に使用する洗剤は相鉄企業の管理物件でも実績のある、リンレイ製「アールズプロ」シリーズを使用。汚れに応じて洗剤を使い分けることで長期に渡り美観を維持します。



⑧定期清掃を年4回実施

大船フラワーセンターは施設の特性上、砂埃や土埃または泥などによる汚れが見受けられます。相鉄企業ではガラス、床についてそれぞれ定期清掃を年4回実施することで清潔感のある施設を維持します。

■清掃計画(案)

| 清掃項目 | 頻度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------------|------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 日常清掃 | 毎日 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| ビニル床材 定期清掃 | 4回/年 | | ● | | | ● | | | ● | | | ● | |
| ガラス 定期清掃 | 4回/年 | | ● | | | ● | | | ● | | | ● | |
| 硬質床材 定期洗浄 | 4回/年 | | ● | | | ● | | | ● | | | ● | |

⑨特別清掃 特に汚れのひどい箇所の高圧洗浄

コケなどが生え足元の滑りやすい場所は来園者様の転倒事故などにもつながりかねません。

相鉄企業では特に汚れのひどい箇所などについて常用吐出圧 8.0Mpa 以上の高圧洗浄機を用いて早急な処理を行い、施設の安全を確保します。



4) 保守点検業務

“予防保全”を基本とし、機器の摩耗や経年劣化などから発生する潜在的なリスクを早期に発見し適切に対応することで施設の機能保全を図ります。また軽易な修繕等については職員自らが実施する“直営作業”にて実施しコストを縮減し適時性を確保します。

①法定点検、保守点検等の管理をファシリティマネージャーが実施

設備業務のノウハウを持つファシリティマネージャーが施設内の法定点検、保守点検等の設備管理を行うことで、業務品質を確保しつつ人員配置をスリム化し維持管理コストを縮減します。

②補修改善計画書の提出と対応の協議

修繕費での対応が困難な大規模な補修・改善を要する場合は、施設補修改善計画書を作成し対応を県と協議します。当該年度中に補修改善対応が行えず次年度に対応を持ち越す場合については、優先順位を再度確認のうえ改善計画を継続して県と協議します。



③修理対応の履歴蓄積

修理・異常対応の履歴を蓄積し、補修・修繕費の低減、再発防止策立案に役立てます。
補修改善計画書の運用事例

■施設維持管理業務年間作業計画（案）

| 点検内容 | 頻度 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----------------|-------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 浄化槽保守点検 | 12回/年 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 浄化槽清掃 | 1回/年 | | | | | | | | | | ● | | |
| 浄化槽定期検査 | 1回/年 | | | | | | | | | | ● | | |
| 自動ドア保守点検 | 4回/年 | | ● | | | ● | | | ● | | | ● | |
| 消防設備点検 | 2回/年 | | | ● | | | | | | ● | | | |
| 受水槽清掃 | 1回/年 | | | | ● | | | | | | | | |
| 小規模専用水道検査 | 1回/年 | | | | ● | | | | | | | | |
| 飲用水水質検査(16項目) | 1回/年 | | | ● | | | | | | | | | |
| 飲用水水質検査(11項目) | 1回/年 | | | | | | | | | ● | | | |
| 飲用水水質検査(12項目) | 1回/年 | | | | | | | | | ● | | | |
| 冷温水発生器保守点検 | 4回/年 | | ● | | | ● | | | ● | | | ● | |
| レジオネラ属菌検査(冷却水) | 1回/年 | | | ● | | | | | | | | | |
| 施設消毒業務 | 2回/年 | | | | ● | | | | | | ● | | |
| ファンコイルユニット点検 | 1回/年 | | | | | | | ● | | | | | |
| エアハンドリングユニット点検 | 1回/年 | | | | | | | ● | | | | | |
| パッケージエアコン点検 | 1回/年 | | | | | | | ● | | | | | |
| 自家用受変電設備点検 | 12回/年 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 床面定期清掃 | 4回/年 | | ● | | | ● | | | ● | | | ● | |
| ガラス定期清掃 | 4回/年 | | ● | | | ● | | | ● | | | ● | |
| 建築設備定期検査 | 1回/年 | | | | | | | | | | | | ● |
| エレベーター定期点検 | 12回/年 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| トイレ洗浄装置点検 | 6回/年 | ● | | ● | | ● | | ● | | ● | | ● | |

5) 警備業務

園の安全を守るために警備は欠かせない存在です。コロナ禍においては、大船フラワーセンター利用者にソーシャルディスタンスを促す等の声掛けも行い、新型コロナウイルス感染症の脅威からも利用者を守っております。

また、月例報告書から、警備における留意点を確認し、留意点をポイントに、警備業務を実施しています。



・月例報告書・警備に対する留意点の例

『引き続き感染拡大防止の観点から、園内利用者の行動をよく見ていただき、特に密になるような団体や家族連れには声掛けを行い、安心安全にご利用いただけるようにしてください。(2021年5月)』

『屋中は特に熱中症の起きる可能性が高いため、巡回時は入園者の動向もよく観察し声掛けを行うようにしてください。(2021年8月)』

『当園としては「うつさない・うつらない」のスタイルで今後も運営を行ってまいりますので、この意識のもと券売周辺での警備強化と園内巡回強化を継続してお願いいたします。(2021年9月)』

『秋になり写真撮影のお客様が増え、花や葉を引っ張るなどして被写体を作り撮影する方がいるため、利用者の違和感を感じた場合は注意喚起、声掛け等を行い対応をお願いします。また、携帯灰皿を持った年配の方が喫煙するケースが増えているため、このような場合も声掛け、注意喚起をお願いいたします。(2021年10月)』

①警備員を24時間常駐で配置

警備員が365日24時間体制で常駐し、開園時間中の巡回警備と夜間の巡回警備に対応します。災害が発生した場合には一時避難場所として施設を開放し、その他職員の参集まで初期対応にあたります。

② 繁忙時の対応

通常業務の巡回警備、立哨、開閉園作業に加えて大型バス来場時の駐車場スペース手配や繁忙時における入場チケット確認、来場者への施設案内や園内清掃などフレキシブルに対応します。

③携帯装備の充実

警備員の携帯装備として、最大4,000ルーメンの懐中電灯を配備します。一般的な懐中電灯の照度は100ルーメンであるのに対し、相鉄企業が夜間巡回に用いる懐中電灯の照度は最大4,000ルーメンもの機能を有しているため暗い園内でも隅々まで視認することが可能となり、特に夜間巡回時のリスク発見や業務効率化において効果を発揮します。



④無線ディテクターを用いたトイレの盗撮・盗聴調査

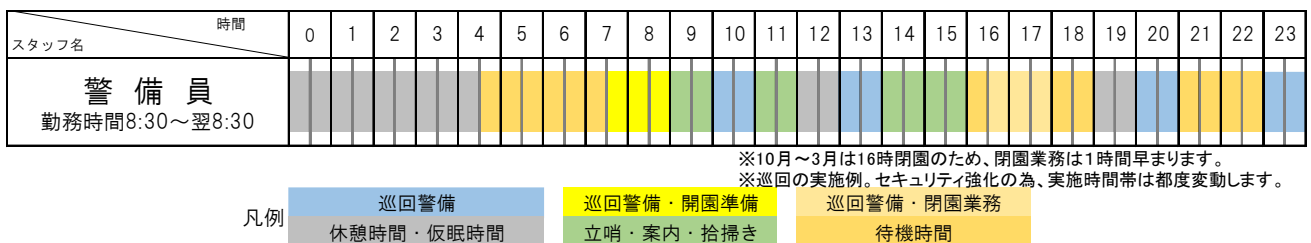
不特定多数の利用者が利用するトイレについては、定期的に専用機器「無線ディテクター」を用いて盗撮・盗聴機械が設置されていないか確認を行うことで施設の安全性を高め、犯罪を未然に防ぎます。



盗撮・盗聴機器調査の様子

■4月～9月警備体制（案）

08:30～翌08:30とし、警備員1名が24時間常駐する体制とします。

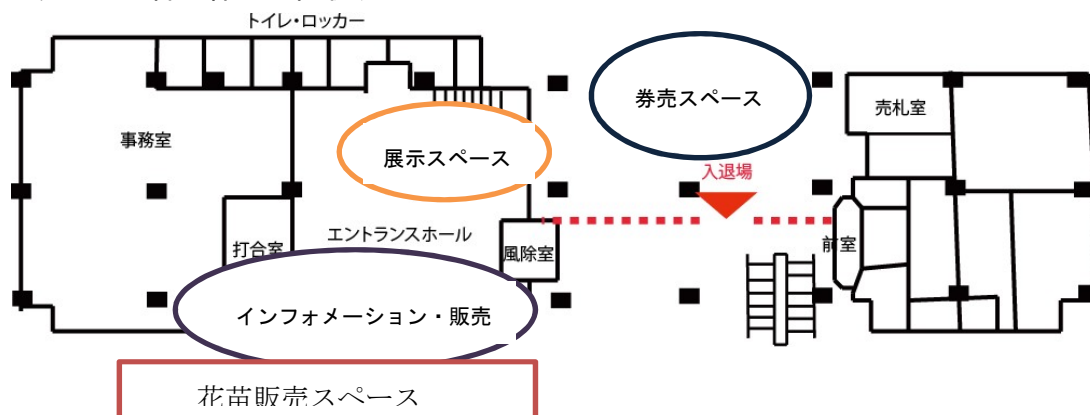


6) 受付業務

現在のエントランス・管理棟の配置図は以下の通りです。

私たちは来園者とのコミュニケーションをより活発に図り、日常的に施設に足を運んでいただける空として、有料入園せずとも売店等を利用できるようにしており、今後も継続します。

■エントランス・管理棟の配置状況



- 来園者から常にスタッフの顔が見え、対面で利用案内を行える環境とすることで来園者が活発にコミュニケーションをとれる場とします。
- 事務スペースでは常時2名の受付スタッフが窓口対応を行い、発券に関するサポートや年間パスポートの発行、無料入園エリア利用者の対応を担います。
- 年間パスポートの発行および障害者等の無料入園者の対応は年齢や本人確認等の事務作業を要するため受付カウンターで行います。
- 休日は入園ゲートに受付スタッフを1名配置し見ごろの植物案内や入園券購入サポート、講座・イベントの周知などを行います。平日は受付、警備、清掃の職員がシフトを組み対応します。

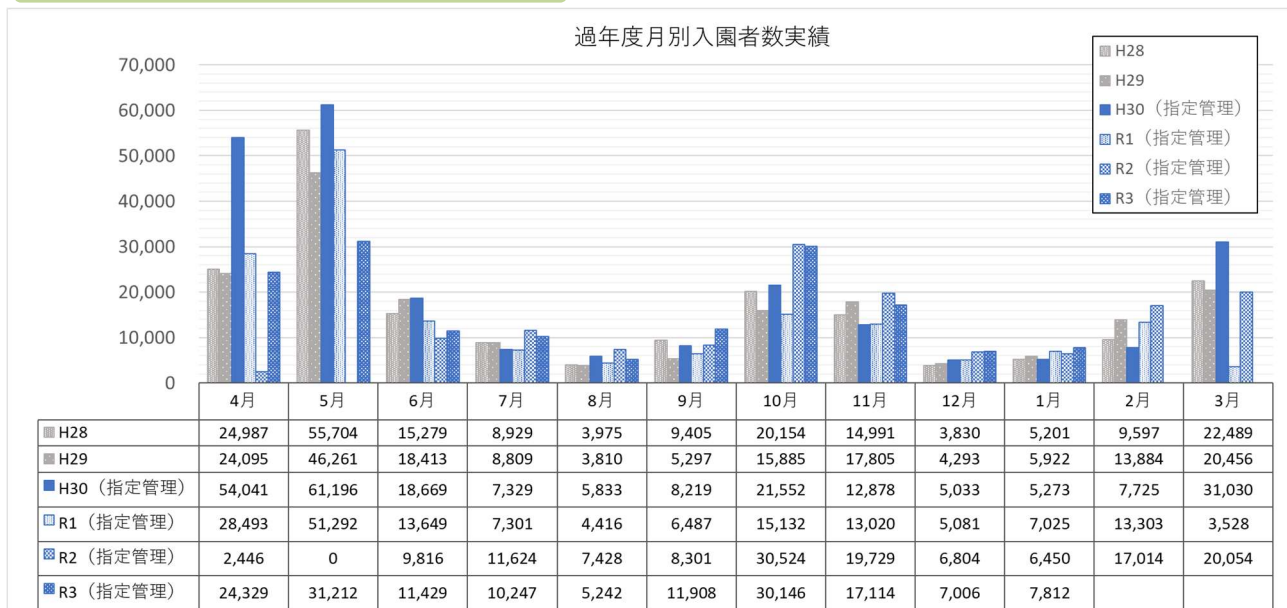
3. 利用促進のための取組、利用者への対応、利用料金

(1) より多くの利用を図るための取組

ア 花き及び植物に関する知識を多くの方々へ普及する事業内容や取組

1) 利用促進にあたっての現状分析

施設の利用者数の推移



■ 来園者数の変動状況

年間来園者数は平成29年度にかけて減少の傾向にありましたが、平成30年度の指定管理開始年度にはオープニングイベントの開催などに伴い、前年比129%を達成し、利用促進を図ることができました。特に4、5月の来園者数は前年の1.3～2倍以上となり、集客力のあるバラや、大船系のシャクヤクが見ごろの時期に夜間開園やSNSの活用、プレスリリース配信等のメディアアプローチを強化し、来園者の増加を図りました。10月にはハロウィンイベントとしてフラワーカーニバルを開催し、平成30年10月は前年の同じ月に比べて136%の来園者数の増加となりました。写真映えるスポットを併設するなど、時代に合わせた施策を実行し、ファミリー層をターゲットにした新規来園者への誘致を強化しました。令和1～2年度においては新型コロナウイルスの感染拡大の影響から臨時閉園やイベントの開催制限により、利用者数は減少傾向となりました。しかし令和2年度からハスの品種を大幅に増加したハスの早朝開園や、猛暑の厳しい季節には涼しい夜間開館など、新型コロナウイルスの感染拡大防止にも配慮しながら新たな施策を導入し7、8月の来園者数はコロナ前より増加し、利用者数の底上げを図ることができました。イベント企画にあたっては、徹底した感染防止対策およびコロナ禍でもソーシャルディスタンスを保ちながら楽しむことのできる企画・運営に取り組むことで、令和3年度には2年度より更に来園



フラワーカーニバル開催の様子



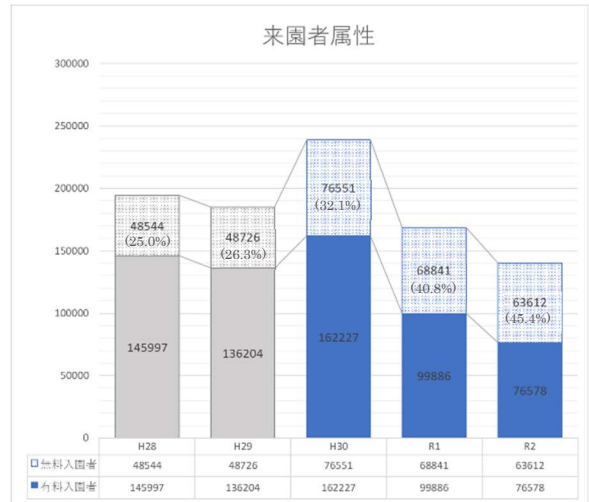
夜間開園の様子

者数が上昇しました。

来園者の属性分析

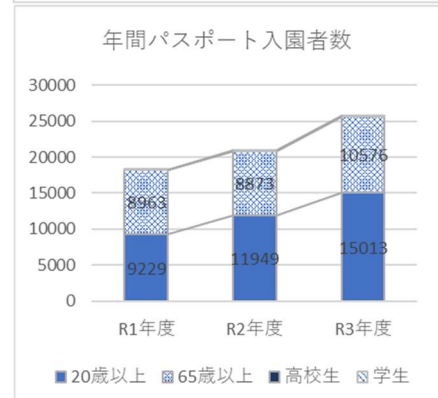
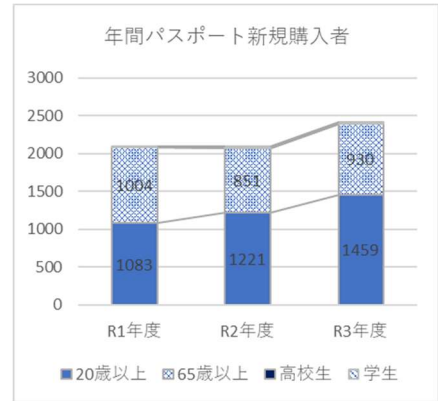
■無料入園者の推移

当グループによる指定管理となった平成 30 年度に、無料来園者数(中学生以下・障がい者手帳をお持ちの方)が 53,848 人増加し、全入園者数に占める割合が6%増加しました。新たに導入した年間パスポートによるリピーターの入園が主な要因で、平均 8~9 回の再来園につながっています。また、日常にご来園いただく幼稚園、保育園の利用も増加しています。令和元年度は新型コロナ拡大の影響を受け来園者数は減少しましたが、無料来園者割合は前年比約 9%増加し、コロナ禍でも日常的に花や緑を楽しみたい方の憩いの場としての機能を担っています。今後も地域住民のニーズに応えながら新規利用者層の開拓に一層注力し、利用者数の増加と利用者満足度の向上を図っていきます。



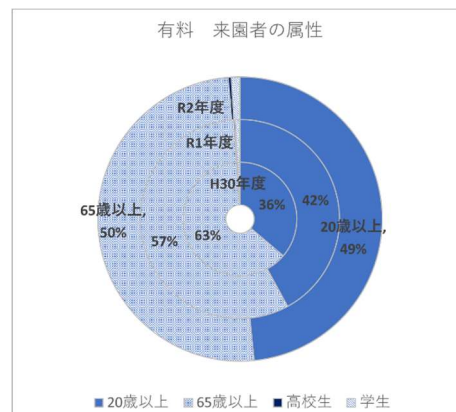
■年間パスポート利用者の推移

平成 30 年度の指定管理開始時から年間パスポートを導入し、リピーターの獲得につながっています。令和元年度以降、20歳以上と学生による購入とリピート数が増えており、従来よりも若年者層の利用促進に寄与しています。令和 2 年度は「20歳以上」の年間パスポート入園者数は前年比 129%に増加、令和 3 年度には 2 月までの累計で同 126%となっています。65歳以上の購入数はコロナ禍以降一旦減少したものの、令和 3 年度には再び増加に転じ、リピート数は毎年増え続けています。コロナ禍において有料入園者数が減少する中でもパスポート利用者は増加しており、コロナ禍における日常的な施設利用に寄与し、全体来園者数の確保に重要な役割を担っています。今後もリピーターにも新たな発見がある企画、いつ来ても楽しむことのできる常設展の新設やパスポート所有者向けの特典の付与等の施策を検討し、更なるリピーターの増加を実現し、経営基盤の安定化を図ります。



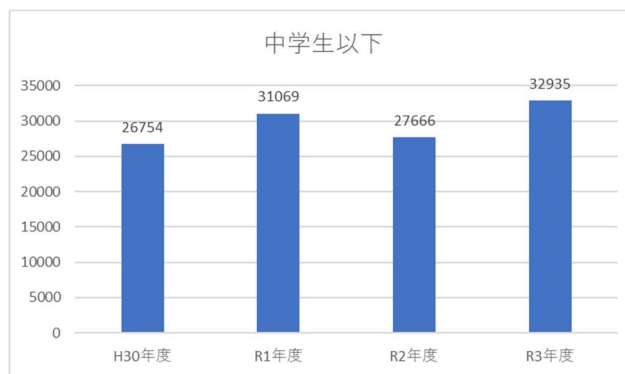
■有料入園者の推移

有料入園者数は平成 30 年度には前年比 119%と学生、20 歳以上、65 歳以上のいずれも増加しました。しかし令和元年度の新型コロナの発生以降は減少し、平成 29 年度比で R 元年度は 73%、令和 2 年度は 56%と、無料入園者数は 29 年度比で減少していない中、近隣やリピーターの方以外の利用が減っている状況です。また、全来園者数に占める「20 歳以上」の割合が増加し、「65 歳以上」の割合が減少している傾向にあります。今後はリピーターの満足度向上の施策を行いつつ、「学生」「高校生」等の新規来園者の開拓をより注力した施策を一層充実させます。



■中学生以下の利用状況

「中学生以下」の利用は令和元年度には前年比 116%となりましたが、新型コロナウイルスの影響を受け、日常的に来園利用いただく幼稚園、保育園の利用がなくなり令和 2 年度には前年比で減少しました。しかし令和 3 年度(2022 年 2 月時点)には外出制限の緩和から、徐々に利用者が増加し、令和元年度以上の来園を見込んでいます。植物の学習拠点として、役割を果たし、植物を五感で体験できる施設として学習機能の拡大と時代のニーズに合った学びの場の提供施策を強化します。

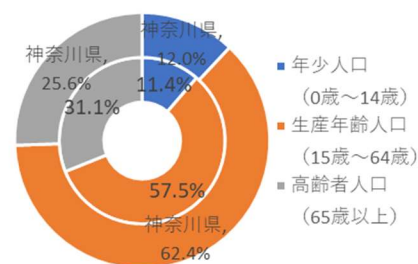


施設の周辺環境

■鎌倉市の人口構成

鎌倉市の人口構成は令和 2 年に、65 歳以上の高齢者が 31.1%を占め、神奈川県(25.6%)の中でも高齢化率が依然として高い地域です。また、今後は高齢者人口(65 歳以上)の増加が続く一方、年少人口(0~14 歳)や生産年齢人口(15~64 歳)は減少していくと推計されています。施設の利用者は現在、高齢者のリピーターも多く、日常的な散歩場所としての利用や、草花の鑑賞、地域コミュニティの場としての役割も担っています。今後こうしたニーズは高いと考えられ、ニーズに合った施設の在り方や企画の検討を行ってまいります。一方で玉縄地域および大船地域においては、鎌倉市平均よりも 65 歳未満人口が多く、特に大船地域は 5 地域で最も年少人口・生産年齢人口が高くなっています。平成 30 年度以降、年間パスポートの導入により同年代の利用も増えており、近辺に日常的に利用できる大きな公園がなく、子育て世代からの利用ニーズも高いことから、引き続き地域の日常的な利用に応える取組を行い、リピーターを獲得しつつ、新設の玉縄桜広場、ピクニック広場を中心に、子供たちにとって安全な遊び場所であることを PR し、新たな利用者の開拓に注力してまいります。

県と鎌倉市の人口構成比較



ピクニック広場の様子

■商業施設・住宅の状況

大船エリアでの一体的なイベントを計画・実施する際には、連携企業に引き続き協力を呼び掛けるとともに、商店会等の団体を通じての協力依頼・調整が必要な場合には率先して対応し、エリアマネジメントの強化に協力します。またルミネでの装花協力を通じた相互PRについても引き続き行い、大船駅利用者への露出も継続して行います。

■観光の状況

本施設の所在する大船駅周辺は、鎌倉市内ではあるものの観光資源が乏しく、鎌倉を訪れる観光客の取り込みが成功しているとは言い難い状況にあります。また鎌倉の観光資源は寺社仏閣が大きな要素であることから、観光客が楽しめるスポット・商店も「朝早く、夜も早い」という状況です。周辺の観光資源・ツアー会社等と連携し、鎌倉湘南周遊・早朝開園ガイドツアーを企画することで広域圏からの集客に結び付け、新たな利用者マーケットの開拓を行います。

イ 利用者に対して、花きおよび植物に接する機会を提供する取り組み

ウ 花育の推進に係る取組

2) 目標入園者数

入園者数の目標設定

年間入園者数 25 万人達成を目指します

前期指定管理期間は平成 28 年度入園者数 19 万 2131 人の実績値に対して、約 30%増の年間 25 万人を 5 年目の目標として掲げ、初年度は目標 20 万人に対して実績 23 万 8778 人と大きく達成しましたが、2 年目以降は新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、目標来園者数に届きませんでした。

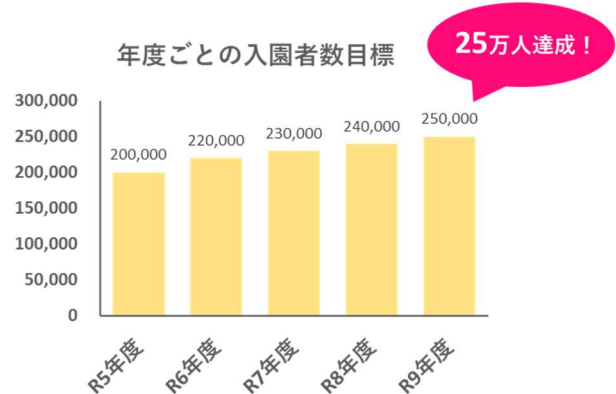
次期指定管理期間は新型コロナウイルスの感染拡大が収まり、ニューノーマルの中であらたに5年目の目標来園者数を 25 万人に設定し、管理運営を行ってまいります。(5 年間の年間入園者数目標は右図の通りです。)

この他に入園を伴わない利用(野菜市、花苗購入、無料エリア利用)として、年間 1 万人の利用を見込みます。

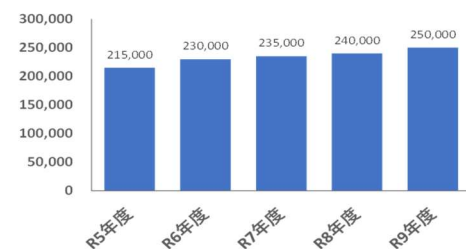
また、新型コロナウイルスの感染拡大等の影響が次期の指定管理期間5年間の中で限定的であった場合の目標入園者数として、令和5年度の利用者数は 15,000 人、令和6年度は 10,000 人、令和7年度は 5,000 高い目標値を設定し、社会情勢を鑑みながら、より高い目標設定をした中で利用促進を図っていきます。特に大規模な集客イベントや、多くの人が集中する花の見ごろ時期など社会情勢の影響を受けやすい部分で県とも密接に連携を図りながら柔軟な利用促進施策を展開してまいります。

月別入園者数目標は以下の図の通りです。過去 6 年間(平成 28～令和3年度)の異常値を除いた月別平均値および標準偏差の状況から、次期5年間の月別入園者数目標を定めました。

- 入園者数の多い5月、10月は年度毎の来園者数の変動も大きく、広報や利用促進施策の影響度も大きいと考えられるため、より多くの入園者を獲得するための積極的な広域広報の実施と、フォトスポットやコンサート、マルシェ、フェスタなど大人数を集客できる企画を展開することで、入園者数の増加を図ります。
- 入園者数の少ない7～9月、12～1月は大船フラワーセンターが持つ植物の鑑賞などの基本的な役割に対する利用者の期待が薄い時期とも言えます。この時期は通常の利用者層とは異なる利用者に対する広報や企画を展開することで、新たな層の集客拡大の機会ととらえて、新規利用者を取り込みながら、植物の魅力の発信を行います。また6・7月はアジサイの名所づくりによる新たな誘客やハス早朝開園に合わせたバスツアーの企画による利用促進を行います。
- 2月～5月は桜などの開花状況により入園者数が変動するため、タイムリーな開花情報の提供によって一番よい時期に入園者を逃さないことで、確実な来園に繋がります。



年度ごとの入園者数目標
(非コロナ禍の参考目標値)



■令和5～9年度の月別入園者数目標

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|
| R5年度 | 25,000 | 50,000 | 10,000 | 11,000 | 6,000 | 9,000 | 26,000 | 15,000 | 5,000 | 6,000 | 13,000 | 24,000 |
| R6年度 | 26,000 | 53,000 | 11,000 | 15,000 | 6,000 | 10,000 | 29,000 | 16,000 | 6,000 | 7,000 | 14,000 | 27,000 |
| R7年度 | 27,000 | 54,000 | 12,000 | 17,000 | 6,000 | 11,000 | 30,000 | 17,000 | 6,000 | 7,000 | 15,000 | 28,000 |
| R8年度 | 28,500 | 57,000 | 13,000 | 17,000 | 6,000 | 11,500 | 31,000 | 18,000 | 6,000 | 8,000 | 16,000 | 28,000 |
| R9年度 | 28,500 | 57,000 | 14,000 | 18,000 | 6,000 | 12,500 | 31,000 | 20,000 | 8,000 | 8,000 | 17,000 | 30,000 |
| 標準偏差 | 1,772 | 3,858 | 2,120 | 1,536 | 1,250 | 2,103 | 6,149 | 2,517 | 1,187 | 934 | 3,286 | 4,440 |
| 想定標準入園者 | 25,476 | 51,086 | 16,503 | 9,040 | 5,117 | 8,270 | 22,232 | 15,923 | 5,341 | 6,281 | 12,305 | 23,507 |

月毎の利用促進のポイント

大型集客イベント・広報

新たな利用者層への訴求

タイムリーな開花情報

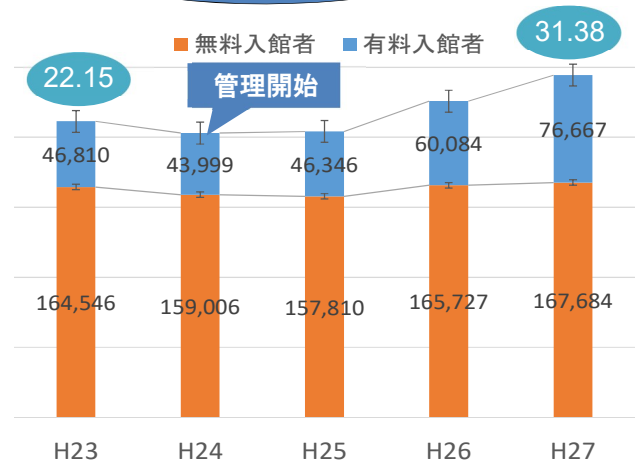
ターゲットに響く広報で利用促進

大阪市の咲くやこの花館では、65歳以上（無料）の固定された来館者が多数を占めていた課題に対して、新たな利用者層となる若者をターゲットにして植物の新たな魅力を「おしゃれで楽しそう」な企画と広報で伝えることで、新規利用者層の開拓に成功し、利用料金の増加を実現しています。

本施設においても戦略的な広報を行い利用を促進します。

- ターゲットごとに効果的な利用促進施策を展開し、利用者全体の利用者満足度の向上を実現します。
- 広報ごとに目標リーチ数と入園者数を定めることで新規を含めた利用者数の増加を実現します。

管理開始から4年後に
有料入館者数 29,857 人増
有料入館率 9.23%増

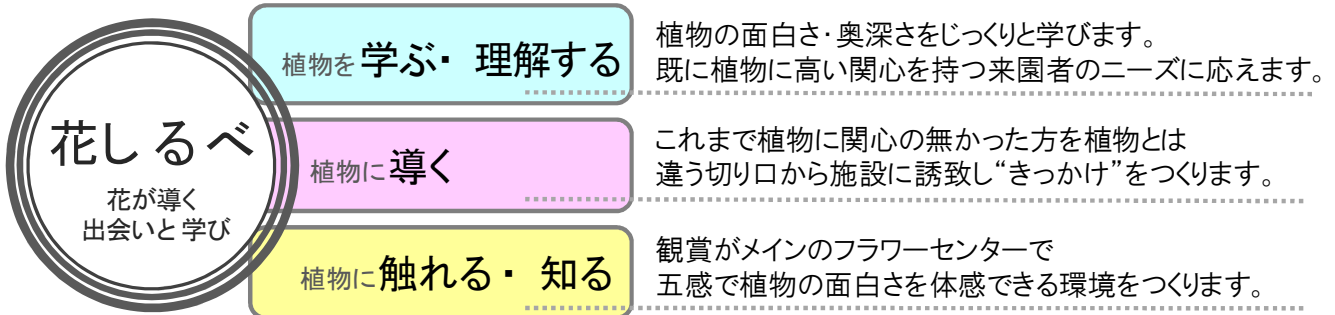


■大船フラワーセンター広報ツールの実例



3) 利用促進の実施方針

利用促進にあたっては、①既に植物に対する関心が高い来園者のニーズに応える「植物の面白さ・奥深さを学ぶ機会の提供」、②これまで植物に関心の無かった方を植物とは異なる切り口で施設に誘致し、「知る“きっかけ”の提供」、③観賞がメインのフラワーセンターで「五感を使って植物の面白さを体感できる環境づくり」の3つの視点で取組みます。



各種イベントや企画の開催にあたっては外部の専門家や、地域企業、ボランティア等のご協力も得ながらより効果の高いプログラムの提供によって利用者満足度を向上し、リピート率の向上と新たな利用者の獲得を実現します。

4) イベント企画運営

多くの方々へ気軽にセンターに訪れて頂くきっかけとなる企画や、より深く植物に関する知識を得られる体験、違った角度から植物の魅力に触れるものなど、目的別のさまざまなイベントを開催します。またイベントは季節や展示と連動させることで、より深く植物を知る、展示を楽しむことができる機会にもなるよう、開催時期に合わせて相乗効果を発揮するように企画します。

① 植物に興味を持つきっかけとなるイベント

●ぬいぐるみのお泊り会

共同事業体の指定管理施設等と連携し、普段家族のように親しんでいるぬいぐるみをお預かりし、ぬいぐるみ達が施設でお泊りする様子をお届けするイベントを開催します。普段見られない施設の姿などをぬいぐるみが楽しんでいる様子を通して伝えることで、植物への興味やお子様の創造力を沸き立たせます。またイベント後には写真展として広く公開します。



●温室での音楽とダンスイベント

温室の植物たちとダンスのコラボレーションでリニューアルした温室のPRと、新たな施設の楽しみ方をご提案します。地域の方たちの発表の場としても位置付け、地域と一体となったにぎわいを醸成します。



例) ヒョウタンを使ったマラカスづくりとみどりの音楽会

みどりのフラダンスステージ

●メモリアルフォト教室

近年自分の遺影写真を自ら選びたいという人が増えています。素敵な花々と写真を撮った後に額をお花で縁取り、自分好みの写真を作ります。



●写真コンテスト

・通常部門

本施設で撮った写真を募集し、来園者の方に投票してもらい、優秀作品を決定します。

・インスタグラム部門

若者も気軽に参加できるインスタグラムを活用したコンテスト。情報拡散も期待できます。

●小学生工作発表会

小学生等を対象に「こんな植物があったらいいな」という空想の植物を作成してもらいます。作品は表彰を行い、その後施設で展示します。ご家族で展示を見にいっしやる方やご年配の方にも楽しんで頂ける展示として入園者の増加につながります。



② 植物をより深く知る、触れるイベント

●出張熱帯植物園の実施（協力：都立夢の島熱帯植物館）

観賞温室でこれまで観察できた熱帯植物観賞の代替策として、都立夢の島熱帯植物館協力のもと「出張熱帯植物園」を実施します。熱帯植物は特徴的なものが多く、子供たちの興味を引き・学習効果が高いことから、子供たちに引き続き、ホンモノの植物を身近で観賞する機会を提供します。

- ・実施期間は植物にとって可温の必要が無い夏休み期間中
- ・日中に一般公開を行うとともに、フラワーセンターの夜間開園に合わせて夜間の特別公開を実施
- ・夜間の特別公開時には、イランイラン、イエライシャン等の夜間に開花する植物を展示
- ・出張熱帯植物園の実施に合わせて、園長がガイドプログラムを実施

●オンラインツアーイベントの実施

遠方からで来園が叶わない方や、興味があり行ってみたい方をターゲットに、フラワーセンターのオンラインツアーを実施します。参加者と会話を楽しんでいただけるようなチャット機能を用いた生配信や、事前にお送りしたキットを使用したオンラインフラワーアレンジメント教室を実施し、遠くにいても大船フラワーセンターを楽しんでいる気持ちにさせるような工夫をいたします。また、参加者には園内で使用できるクーポンをプレゼントするなど、来園するきっかけづくりも行います。

●早朝・夜間開園

普段は見られない時間の植物の姿を見て頂けるよう、各種植物の開花期に合わせた早朝・夜間開園を行います。また夏季は暑さ対策としても位置付け、入園者数の減少する7、8月を中心に涼しい時間帯での鑑賞を行って頂ける機会としてお楽しみいただきます。

- ・夜間開園は通常料金にて実施
- ・特別プログラムとして、園内の夜間ガイドツアーや出張熱帯植物館、ケータリングカー、ナイトコンサート等を実施
- ・適宜県と協議のうえ飲食の提供を実施し、普段とは違った時間をゆっくりと楽しんで頂きます。
- ・鎌倉市観光協会と今後実施を検討する旅行ツアーや早朝に開花するハスの開花時期、鎌倉野菜市の実施に合わせて早朝開園を行います。



③ 季節や展示等と連動したイベント

●芳香植物の季節と連動したアロマ体験

園内にはバラやシャクヤク、モクレンなど香りのする植物が植栽されています。香りがあるという特徴を生かし、見ごろの花と連動したハーブティー試飲やキャンドル、石鹸づくりといったワークショップを開催し、植物に興味を持っていただくきっかけづくりを行います。



●季節のフラワーフェス

フラワーセンターの見頃の植物が見られるシーズンに、さらに植物を深く楽しめるタイムリーなイベントを展開します。本施設の一つの目玉でもあるバラの開花期にはバラを使ったスイーツの提供などを行います。

●夏休みプログラム

来園者数の少ない夏の時期の利用促進として子ども・家族向けの夏休みプログラムを企画します。自由研究のテーマにもなる植物の研究プログラムを通じて植物のことをいつもより深く学んでもらいます。

④ 日常的に気軽にセンターを訪れて頂くためのイベント

●青空エクササイズ

芝生のうえで緑と風を感じながらヨガ・ピラティス・エアロビクス等のエクササイズを行い、体を動かすことで心身の健康を増進させます。



●ボタニカル青空ライブラリー

青空の下でハンモックやチェアでゆったりしながら読書を楽しんで頂き、植物がかもし出すおだやかな一時を楽しんでもらいます。



●フォトウエディング

ウエディング事業を展開する構成企業の強みを活かし、花とみどりに溢れたフォトウエディングロケーションとしての活用をご提案します。

●いつ来ても楽しい1年を通じて楽しめるセルフクリエイション

センターでとれた植物を材料にして、無料で自由に体験できるセルフクラフトや、クイズラリー、フィールドビンゴなど、講師を必要としない「セルフクリエイション」は、密にならないイベント形式であり、いつ来ても何かできる、楽しめる“体験”となります。セルフクリエイションコーナーを設置することで、来園者の満足度の向上とリピーターの獲得を実現します。



◆植物クラフト

季節の植物や園内の資材を用いて、手軽に作成でき季節を感じられるアイテムが制作できる、セルフクラフトコーナーを設置します。常にだれでも参加できるコーナーを設置することで、植物に触れる機会をつくとともに、思い出づくりとしていただきます。

(ウッドクラフト、モイストポプリ、缶バッジづくりなど)

◆フィールドビンゴ

数字の代わりに植物の写真や特徴が書かれた「ビンゴカード」を作成。カードを持って園内を散策してもらうことで、環境学習の場を与えると同時に園内の周遊を図ります。

●エントランスデザインコンテストの実施

エントランス正面や立体花壇は、現在季節に合わせて模様替えを行い来園者を迎えています。当施設の顔でもあるエントランスのデザインをコンテスト形式で公募することで、来園者に愛着を持っていただきます。

⑤ SDGs や環境意識の啓発イベント

●アフリカのバラ展

バラの時期に合わせ、ケニア共和国大使館、AFRIKA ROSE との協力のもと、園内にはないケニア産のバラ 30 種の展示と合わせて、ケニアの民族衣装等も展示、展示期間中にフェアトレード商品も限定販売し、フェアトレードの普及促進も図ることで、植物から SDGs へのアプローチを行います。



●発電床や自転車発電装置を用いたイルミネーションイベント

例年行っているイルミネーションの一部に発電床や自転車発電装置等のクリーンエネルギーを活用し、来園者参加型のイベントとします。同時に生態系保護に関するパネルや希少価値のある植物の展示を開催することで、来園者の環境に対する意識を啓発します。



●発生材を用いたイベントの開催

管理の際に発生した剪定枝や木の実、葉などを用い、打楽器に見立てた音楽コンサートの開催やフラワーアレンジメント教室を実施し、楽しみながら環境学習ができる機会を創ります。

●SDGs デーの開催

鑑賞温室での希少種展示、気候変動による植物の変化に関するパネル展示、グリーンカーテンでつくるフォトスポットなど、園全体を使った SDGs イベントを開催します。また、地元生産者や商店街と協力し、野菜や加工品、お弁当販売を行い、イベントを盛り上げるとともに地域活性化を図ります。来園者には種の配布を行うなど、地域の緑を増やすことのできるような取り組みも実施します。



⑥ その他の集客につながるイベントの取組

●マスメディアでの報道を意識した取組み

マスメディアに情報を提供した際に、TV、ラジオ等で報道されやすい取組み・情報を意識して取組みます。

- ・季節性の高い情報(植物の開花情報、お雛様や子供の日等季節の行事に絡んだイベント情報など)
- ・話題性、珍しさ(数年に一度しか開花しない植物の情報、日本ではめったに見ることができない植物の情報) ※マスメディアからの取材・報道実績については「より多くの利用を図るために行う広報・PR 活動の内容等」参照

●観光ツアーの誘致・企画

広域からの観光集客施策として、鎌倉市等の周辺の観光資源を活かしたツアー企画の取組を行います。すでに鎌倉市観光協会をはじめ各事業者と調整を進めている他、JRにもお声がけをして地域連携会をつくる働きかけを進めています。新たに始めたハスの早朝開園ガイドツアーなどのコンテンツと連携した企画とし

て、鎌倉や湘南などの周辺観光エリアを回った後、大船近隣に宿泊して頂き、翌朝に当施設に訪れて早朝開園ガイドツアーにご参加いただくパッケージツアーを想定しています。

●その他県内他施設と連携した企画・イベントの開催

県内連携として、花菜ガーデンをはじめとした、各関連施設等との連携企画・イベントの開催を積極的に行います。

・鎌倉芸術館で行われるオープンデイへの出店

バラの時期に合わせてバラ香るバスソルト等の販売やバラ香る除菌スプレーのワークショップの実施などを行います。当施設とは逆方向の立地に位置する施設に出店をすることにより、フラワーセンターに来園されることがないお客様との接点づくりにも繋がります。



5) 展示会講演会

花き愛好者団体による展示の他、施設独自の展示や講演会を開催します。また、展示への関心と理解を高めるため、展示会と連動した園芸教室・ワークショップ・イベント・広報を行い、総合的に施設の魅力をアピールするとともに、花き及び植物に関する知識の普及を推進します。

●日本植物園協会加入の植物園と連携した展示会の開催

日本植物園協会に加入している各植物園と連携して、展示物や展示パネルのデータを共有し新たな展示を実施します。代表団体が管理運営を行っている都立夢の島熱帯植物館では、通年でオリジナルの企画展を開催しており、同施設との展示品・データの共有連携も引き続き行います。

●著名なコレクションによる展示

国立科学博物館で、湯浅浩史氏が世界各国から収集したコレクションをもとに開催された「世界のヒョウタン展～人類の原器」と同一のコレクションを用いて、世界のヒョウタン展をフラワーセンターで開催します。この他、進化生物学研究所をはじめとする各所の協力のもと、従来行われてきた愛好者団体の展示に加えて、新たな来園者の集客につながり、かつマスメディアに取り上げられる可能性の高い新たな展示会を開催します。

●展示室を使った新たな展示や教室

温室の改修に伴い新たに整備された展示室を活用した新たな展示や教室を積極的に展開し、展示の活性化を多方面から推進します。



6) 園芸相談

●通年の園芸相談の実施と蓄積した回答の公開

直営スタッフによる常設の園芸相談体制を敷き、ご利用者からの様々なご相談に通年対応します。また園芸相談に寄せられた内容と回答を蓄積し、園芸に関する知識の普及啓発として公開し、誰もが利用できるようにします。

●園芸相談の問合せ窓口の明確化

コロナ禍や障害などの理由で来園での園芸相談が難しい方向けにWEB上に問合せ窓口を明確化し、メールでのお問合せに対する回答も行い、多くの園芸相談を希望される方へご対応します。

●園芸相談と連動したイベント・教室の企画開催

園芸相談に寄せられた内容からニーズが高いものを園芸教室やイベントとして体験しながら学んで頂ける機会を設けます（例 園長と行う ハスの植え替え体験講座など）



7) 園芸教室・ワークショップ・ガイドツアー

季節ごとに園内の見ごろの植物を案内する人気の季節の植物ガイド（園長さんぽ）を引き続き開催するほか、植物に気軽に親しむきっかけとなる教室・ワークショップや、展示会と連動した内容のものを多数開催し、多くの方に花き及び植物に接して頂く機会を提供します。

●ガーデニングはじめての一步

植物を育てていて、失敗の経験がある方は多いと思います。あえて皆さんの”失敗体験“を募集し改善点やアドバイスを行う展示で植物を育てることに親近感を持ってもらいます。

●フラワービュッフェ寄せ植え体験

お好みの植物を選んで寄せ植えを体験できる教室。素材は地域の生産者などにご協力いただき、県内の花き等のPRを図ります。



●プリザーブドフラワー教室

日比谷花壇の強みを活かした満足度の高い教室を開催します。非常に満足度が高く、リピート率の高いイベントとなっており、多くの集客を望めることから利用促進の一環として引き続き展開してまいります。



●五感で感じるフラワーセンター

フラワーセンターの植物の展示方法は“観賞”が基本ですが、肌触り、匂い、味など五感を使って体感することでより効果的に植物本来の魅力・面白さを来園者に伝えることができます。

五感で感じるフラワーセンターとして、以下の取組を行います。

◆五感で感じるフラワーガーデン

実際に植物に触って体感できるコーナー「五感で感じるフラワーガーデン」において、手触りが面白い植物、匂いが特徴的な植物、味わうことが可能な植物を集め、入園者が自由に植物に触れられるようにします。後述の障害者の方々に向けたプログラムの実施場所としても活用するため、バリアフリー対応を前提に、車いすでも植物のすぐ近くまで近づける動線設計とし、高さも車いす等でも利用しやすいよう、丈の低い植物はレイズドベットに植栽するなどの配慮をします。



◆五感で感じるワークショップの企画・実施

聴覚障害の方には解説板や手話・実物の植物・写真を用いたガイド、視覚障害の方であれば樹皮や葉の手触りの違い・香りを用いたガイドなど、ガイド・説明の方法を工夫することで、全ての方に植物の魅力に触れて体感して頂くことが可能です。障害のある方だけではなく一般の方も、同プログラムに参加していただくことで、見るだけではわからない植物の面白さにふれていただくことができます。

また介護を要する高齢者の方にも、本プログラムは同様に楽しんでいただくことが可能です。



8) 花育の推進

●年間を通じた花育プログラムの提供

日比谷花壇グループでは花育事業を継続的に行っています。

神奈川県園芸協会が行う花育に加えて、年間を通じたプログラム提供を行います。学校・家庭・地域社会のなかで花とみどりと触れ合うことで、「情操教育」「社会教育」の両面から学ぶ機会を提供しています。「命」を学ぶだけでなく、「社会のシステム」を学ぶことで、生きていくための「現実力」と「創造力」のある人材育成に貢献するプログラムを提供します。

子どもたちの成長にしっかりと根付く「花を通して命を学ぶ 子どもの心を育てる“はないく”」とします。（単発での参加も可能です）



●プログラム例

「育てよう」芝生くん

芝生広場と同じ芝の種を使って、人の顔に見立てた芝の栽培キットを作り植物の成長過程を観察します。

- ・普段なかなか見ることのない芝の種を触って感触を確かめたり、匂いを嗅いでみたり、五感で植物を感じます。
- ・芝生くんの種が発芽する様子を観察しながら、より植物への関心が高まります。
- ・自分で作った栽培キットで芝が育つ様子を観察してもらい、芝に親んでもらいます。園庭の芝生との生育の違いを見比べることで、より効果的に芝生の生育過程への関心を高めることが、このプログラムの狙いです。

●その他の子どもたちの成長に寄与するプログラム等

当施設的环境を活かし、様々な教育・情操に関わる企画を提供します。

◆びっくり！おばけかぼちゃ

子どもたちと同じくらいのおおきさのおばけかぼちゃを園内に設置します。植物の持つさまざまな顔を楽しみながら知ってもらいます。

◆子育て応援プログラム

子育て世帯が多いエリアであることから、親御さんのお悩みを解決するアドバイスや親同士での悩み相談を行える場を設けます。また民生委員などの協力を得て、子ども預かり付きのイベントを開催するなど、子育てに奮闘する親御さんの支援を行います。



エ 展示植物に関する情報や知識をより分かりやすく伝える取組

1) 植物解説パネルの拡充

◆ラミネートフィルム（マットタイプ）を使用した自作の解説パネル

スタッフ独自の目線で、展示植物の観察ポイントやユニークな特徴などを解説する自作の解説パネルを作成します。

◆「オンライン植物解説」へのリンク

植物園が提供できる解説の充実度・情報量は、設置する解説パネル（サイン）の面積と比例関係にあります。解説パネルを拡充しようとする、それだけ設置面積が必要です。しかし一方で、来園者に真に観賞・観察してほしい対象である展示植物を引き立てることや、ガーデンとしての景観を美しく保つことも重要です。

そこで、小さい掲示で充実した情報をお届けする手段として、オンライン植物解説（ウェブページ）へリンクするQRコードの掲示を導入します。

当初は実証実験として一部の導入し、実証実験期間には携帯端末をお持ちでない方など、希望される方にはタブレット端末の貸出しを行い、利用者の反応（アンケート調査）を集計します。

◆解説文にふりがな（ルビ）を振る

子どもでも読んで理解できるよう、新たに設置する掲示については文章は平易な表現を基本とするとともに、漢字にはふりがな（ルビ）を振ることで、誰もが植物についての解説内容を理解し、植物に対して親しみを抱けるような環境を提供します。

◆「大船系」品種についてのPR

品種の成り立ちなど、分かりやすく且つ親しみが抱けるように解説を作成し、掲示を行います。また、毎月開催の「園長さんぽ」にて見ごろの大船系品種について充実した解説を行います。

◆植物の分類体系や形態の多様性に関する解説

植物の名札に記されている「バラ科」「マメ科」といったような分類群名称や、ラテン語で記された学名は、多くの人にとってはなじみのない植物分類学分野の用語ですが、特に注釈なしに掲載されてい

るのが多くの植物園での現状です。そこで、種や分類群の多様性に関する解説、階層分類や国際的な命名方法に関する解説がひととおり学べるような設えの整備に努めます。（実施例：解説シートの配布、解説ウェブページを作成、解説パネル掲示など）

また、植物の器官の名称（「萼」「花托」など）も、多くの人にとっては解説なしには理解が難しい用語です。図示により植物の器官の名称が理解でき、花き園芸植物の形態の多様性が実感をもって理解できるよう、丁寧な解説を心掛けます。

◆庭園景観や自然な姿を見せるエリアには掲示を控える

下記エリアについては風景や自然な姿で生育する山野草を楽しんで頂くため、解説プレートを設置しないか、あるいは極力目立たないよう少数を設置するに留めるものとします。

- ・日本庭園
- ・もみじ山の下草
- ・グリーンハウス前広場花壇
- ・エントランス広場の鉢植え

◆品種コレクションには確実に正確なネームプレートを取り付け

「主な保有植物」をはじめとする品種コレクションを並べて展示する場合は、各展示個体の品種名が分かるよう、ネームプレート等を確実に取り付けます。作出年代や作出場所・育成者などの情報もできる限り付記するよう努めます。

イ より多くの利用を図るために行う広報・PR 活動の内容等

1) 広報・PR の基本的な考え方

施設の魅力発信、新規利用者・利用料金収入の増加を目指すうえで、広報・PRは重要性の高い業務です。年間の植物の見ごろのタイミングや、展示、イベントなど時期に合わせて戦略的に広報宣伝を実施することで、ターゲット別に最適な利用促進を実現します。私たちが4年間で培った広報連携先のネットワークとその広報効果の実績を活かしつつ、新たな関心層やリピーターへ向け、ターゲットの選定と効率的な情報発信を行い、広報効果の検証をしながらPDCA サイクルにより常に広報効果の最適化を図ります。私たちは広報・PRを担う専任の職員を配置し、企画担当者や植栽管理担当者と連携しながら、以下の方針にもとづき取り組みます。

●発信内容に応じてターゲットを選定し、関心層へ情報が行き届くような広報手段・媒体のプランニング・出稿を行い、地域住民の方や広域からの来訪者の集客を図ります。

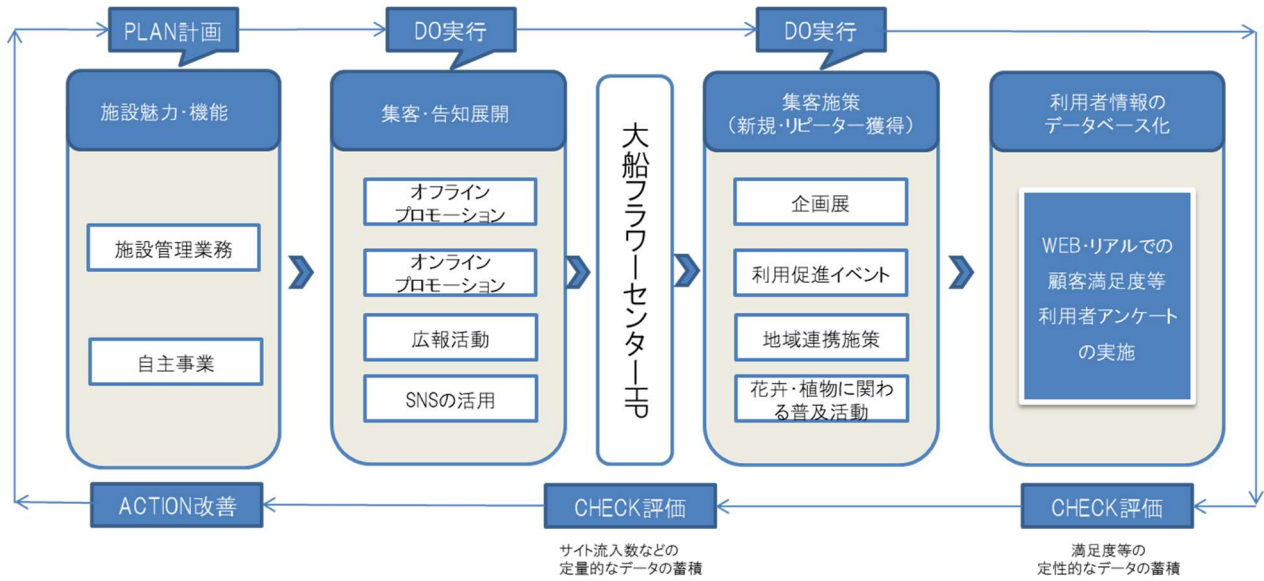
本施設利用者、鎌倉市・近隣住民、隣接市住民、県内・県外からの利用者といった情報の訴求範囲と、チラシ・ポスター・SNS・WEBサイト・WEB 広告といった広報ツールの違いによる情報の受け取り手の違い(高齢者、主婦層、子育て世代、10代・20代の若年層など)をふまえ、ターゲットの関心層を明確に位置付けたいうえで利用促進の内容と連動させながら、情報伝達に使用する広報ツールを選択します。

| ターゲット | 広告・PR の コミュニケーション | 生活者の行動 |
|-----------------|---------------------------------|----------------------------|
| ◇本施設利用者(近距離) | ◇メインコミュニケーション | ① 施設への興味関心 |
| ◇鎌倉市・近隣利用者(近距離) | ① センターの認知・魅力発信並びに花卉及び植物に関わる情報発信 | ② イベントへの興味、関心 |
| ◇県内からの利用者(中距離) | | ③ イベントへの参加 |
| ◇県外からの利用者(遠距離) | ◇集客促進コミュニケーション | ④ 地域連携事業への関心 |
| | ① 本施設への誘客イベント告知 | ⑤ ロコミの醸成／複数イベントでの |
| | ② 神奈川県及び鎌倉市観光振興に関わる発信 | リピーター化(データベース活用による集客行動の精査) |

●広報・PR 活動におけるPDCA サイクルの実践

広報・PRの施策が実際にどの程度集客に結びついているか定量的に検証し、より魅力的で効果的な利用促進・広報 PR を行うために、利用者や関心層の声・ニーズを拾い、検証・改善を行います。集積したデータをもとに、集客告知方法の精査・集客イベント・プログラムの見直し・施設管理方針・自主事業の取組み等にPDCA サイクルを回し、各施策の改善を図りながら、継続的により適切な手段や取組みを実行していきます。

○広報・PR活動におけるPDCAサイクルの検証と反映



●共同事業体各社の持つ情報チャネルを活かした、多面的な広報の展開

鎌倉市公園協会の地域とのネットワーク・相鉄企業の県内の情報発信力・日比谷花壇・日比谷アメニスの花みどりに関する情報発信力を活かし、切れ目のない広報により情報を漏れなく届けます。

広報活動の種類と訴求範囲

| 訴求範囲 | 対象者 | 具体的な方策 |
|------|----------|---|
| 近距離 | 来園者、近隣住民 | <ul style="list-style-type: none"> ・館内POPの掲出 ・はなしるべ(施設チラシ)の発行 ・近隣施設へのチラシ配架 |
| 中距離 | 県民 | <ul style="list-style-type: none"> ・湘南モノレールホーム掲示板の掲出 ・JR大船駅構内チラシ配架 ・県内公共施設、民間施設での情報提供 ・「県のたより」などの広報物への情報掲出 |
| 遠距離 | 県外 | <ul style="list-style-type: none"> ・植物園協会加入施設など類似施設への情報提供 ・SNS、動画配信サイト、WEBサイト運営 ・WEB広告への掲出 ・プレスリリースによる全国版広報媒体への情報提供 ・TV、ラジオ、新聞等のメディア露出 |

2) 来園者・近隣住民への情報発信：近距離

① タブレットを使用したスタッフによる来園者への直接的な情報提供

入園ゲートにおいて受付スタッフが当日の開花状況や園内案内、近日中に行うイベント、企画展情報をタブレット使用した視覚的に分かりやすく、更新頻度の高いツールを使用し、情報を直接来園者へ提供します。



② パンフレット、植物園だよりなど配布物のデザインの刷新・内容の見直し

現在のパンフレット、植物園だよりを、より手に取りたくなるデザイン・興味を惹く内容に刷新します。デザインや内容については、子どもや主婦等、より幅広い世代に読んでいただけるようなデザインにし、植物のミニ知識や暮らしへの取り入れ方などの特集に取り入れ、広く楽しんでいただけるものとします。

制作にあたっては、構成団体の日比谷花壇が社内に有する販促物制作専門部署と打ち合わせを行い、内容とデザイン性が高く読みやすい広報媒体を発行します。

■パンフレット・チラシデザインイメージ



③ デジタルサイ

ネージを活用した情報発信

管理事務所1階の売店付近にて、デジタルサイネージを使用し、季節の花とみどりの開花状況やイベントの告知、地域の取組み等について情報発信を行います。園内だけでなく、近隣地域や市内、県内の類似施設や近隣観光地の情報なども発信し、当施設に來れば地域の様々な情報を知ることができる情報センターとして、コミュニティの振興に寄与します。

④ 地域情報冊子、フリーペーパーの継続的な情報発信

鎌倉市をはじめとした近隣地域情報誌へこれまでの実績と共に継続的な情報発信並びにスピーディな情報提供を心掛け、継続した連携を行います。

●地域情報誌、フリーペーパー掲載実績

| 年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 合計 |
|-------|---|--------|-----------|-----------|------|
| 掲載数 | 43件 | 53件 | 20件(コロナ禍) | 10件(コロナ禍) | 126件 |
| 主な掲載先 | 神奈川県だより、鎌倉朝日、たまなわ新聞、はまかぜ新聞、タウンニュー ス、江ノ電沿線新聞、湘南ポスト、鎌倉商工議会所 など | | | | 34件 |

⑤ 鎌倉市公園協会が管理する公園での情報発信

市公園協会が管理している鎌倉中央公園、鎌倉広町緑地等の施設でフラワーセンターのパンフレット・チラシ・ポスターを設置、イベント等の周知・案内を行います。

⑥ 地域団体・企業との連携による広報PR

- フラワーセンター最寄駅のJR大船駅構内へのチラシ配架
 - 湘南モノレールのホーム掲示板へのポスター掲示
 - 鎌倉市全域で観光客誘致の取組を行っている鎌倉市観光協会HPでの施設紹介
- その他、地域の協力団体・協力企業と一体となり、地域から県内まで広域での広報PR活動を実施します。

| 団体名 | 広報PRに関する連携内容 |
|-------------|--|
| 湘南モノレール | <ul style="list-style-type: none"> ■リーフレット、イベントチラシを各駅で配布 ■ポスターを駅で掲示 ■ホームページ相互リンク ■湘南モノレール 1 日フリーきっぷ協賛店 |
| 鎌倉市観光協会 | <ul style="list-style-type: none"> ■リーフレット、イベントチラシの配布 ■ホームページ相互リンク ■観光協会のホームページにイベント情報の掲載 ■観光協会が行っている鎌倉観光ツアーのルートにフラワーセンターを加えるなどの検討 |
| 鎌倉商工会議所 | <ul style="list-style-type: none"> ■ホームページ相互リンク ■リーフレット等を商工会で配布 |
| アボック社 | <ul style="list-style-type: none"> ■アボック社運営の花紹介サイト「はなせんせ」への ■ホームページ相互リンク ■園内樹木札作成 |
| 神奈川県立花菜ガーデン | <ul style="list-style-type: none"> ■ホームページ相互リンク ■相互送客に向けた共催イベント |
| 大船ルミネウイング | <ul style="list-style-type: none"> ■リーフレット、イベントチラシの配布 ■ルミネにてお買い物金額に応じてお花の配布 |



【湘南モノレール】ポスター掲示



【大船ルミネウイング】お花配布による施設広報

3) 県内への情報発信：中距離

- ① 神奈川県広報誌「県のたより」での情報提供を継続
- ② 神奈川県観光協会 HP への施設情報掲載と開花情報の掲載
- ③ 共同事業体が管理する県内の指定管理施設での情報提供並びに共同開催イベントによる相互送客の実施
- ④ 共同事業体各社の社員および関係者への広報
関東を中心に約 1 万人の社員がいる相鉄グループをはじめとした共同事業体各社の社員および関係者へグループウェア等で本施設の情報を提供します。
- ⑤ 新聞・雑誌、テレビ等で発信される情報媒体へプレスリリース
プレスリリース送付先並びに取材・広報実績をデータベース化し、確度の高いメディアへ繰り返しアプローチしていくことで効果的な広報の実現に結び付けます。



【特別イベントでのプレスリリース】

○プレスリリース実績

| 年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 合計 |
|-------|---|------|-----------|-----------|------|
| 掲載数 | 17件 | 23件 | 28件(コロナ禍) | 39件(コロナ禍) | 107件 |
| 主な掲載先 | 公益社団法人 神奈川県観光協会、湘南よみうり新聞社、株式会社 TBS テレビ、株式会社テレビ神奈川、株式会社ジューピターテレコム鎌倉経済新 | | | | 50件 |

間、

株式会社はまかぜ新聞社、毎日新聞社、日本放送協会、朝日新聞社、株式会社TBSテレビ、株式会社テレビ朝日、株式会社湘南よみうり新聞社
など

⑦教育委員会・校長会を通じた団体利用の手引の配布と感染症対策の徹底・PR

県内教育機関の、遠足や校外学習の行き先として、施設の学習拠点としての機能強化を図ります。団体利用向けの体験プログラム等の充実と連動して、団体利用、生徒の職場体験を積極的に受け入れている旨を発信し、県をはじめ、鎌倉市や横浜市に所在する教育機関の利用を促進します。情報発信にあたっては教育委員会や校長会を通じて団体利用の手引を配布します。また、コロナ禍における団体受入における感染症対策として、以下の対策を徹底し、周知いたします。

- 団体来園前の事前の体温チェックの実施依頼
- アルコールボトルをお渡しして消毒の実施を依頼とスタッフによる団体来園者各位のマスク着用の確認
- 団体利用の入場レーンの分離(事務所寄りの入場レーンを利用してもらい、一般来園者との導線を分離)
- 園内では巡回スタッフにより密を防ぐ等の注意喚起を都度実施

4) 県外への情報発信：遠距離

① ホームページのリニューアル

- ・ホームページのリニューアルから5年が経過することから、WEBセキュリティ対応やWEBアクセシビリティ対応、細かな利便性の改善など、さらに使いやすくわかりやすいホームページへ刷新します。
- ・様々な情報ツールから膨大な情報を取捨選択する昨今、広報やプレスリリース、SNSなどを介して施設HPへの誘導をする中でアイキャッチを意識したホームページの運用を行います。



【メディアの注目を集める発信】

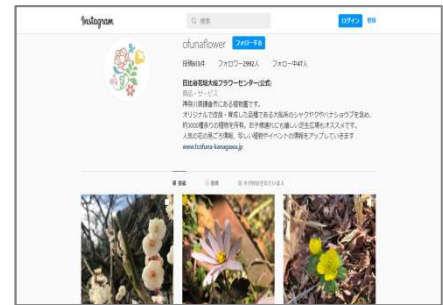
- ・WEBサイトおよびサーバー等のシステムは常に最新のアップデートを適用させ(バージョン対応によりシステム全体の問題が生じる場合を除く)、セキュリティ対策にも万全の注意を図るとともに、定期的なバックアップを行い、万が一の際にも早急な復旧ができる体制を整え、市民・利用者への情報提供に支障がないようにします。
- ・地域や県の情報発信もHPにてあわせて行い、地域の情報サイトとしても活用します。
- ・誰もが利用しやすいホームページへ向け、健常者はもちろん、障がいを持つ方にも配慮したコンテンツを作成し、引き続きアクセシビリティの向上に努めます。
- ・Google アナリティクスを活用し、年間の利用者動向を分析することで、流入元の分析などを行い、情報提供の最適化を図ります。
- ・県内企業や団体へホームページへの広告掲載を依頼し、広報活動の収入確保と経費削減を推進します。また広告募集を行っていることをわかりやすく示すため、広告募集要項の作成と専用ページを作成し公開します。



② SNS を活用した目的別の広報

- ・双方向のコミュニケーションツールとして Twitter、Instagram 等の SNS を積極的に運用します。
- SNS にはそれぞれ情報の発信、利用者の受け取り方、情報の内容による向き・不向きがあります。各SNSの特徴をふまえたうえで掲出する情報を判断し効果的に活用します。またフォロワー数の多い Twitter で外部との連携による広報宣伝を行うなど規模を活かした活用も展開していきます。

| SNS名称 | 特徴 |
|----------------------------|--|
| Twitter 8,300 フォロー | <ul style="list-style-type: none"> ■情報の拡散が容易であり、不特定多数に広く情報を発信したい場合に有効 ■特徴的なキャッチコピー、要約とリンクの構成 ■リアルタイム性、匿名性が高い ■40代以下がメインユーザーであるため若年層への情報発信に有効 |
| Instagram 3,043 フォロー | <ul style="list-style-type: none"> ■画像データの発信に特化したツール ■魅力的・印象的(フォトジェニック)な写真の発信により施設のイメージアップをはかりやすい ■情報発信力の高いユーザー(インフルエンサー)の活用による施設・商品広告などが可能 ■ハッシュタグ(＃)を付けることで特定のターゲットに効果的に情報発信が可能 ■30代以下がメインユーザー:若年層に有効 |
| ハナノヒ Be | <ul style="list-style-type: none"> ■お花×暮らし×SNS でつながるお花とみどり投稿アプリ ■地域情報や植物の育て方、お花と緑のお写真投稿 |



③ 無料のイベント情報ホームページやフリーペーパーの活用

イベント情報を無料で掲載できるホームページやフリーペーパーを活用し、施設公式サイトやSNSを補完するツールとして積極的に掲載を働きかけます。掲載を依頼する場合には媒体ごとの特性を考慮し、効果的な情報発信を心がけます。また掲載後の公式サイトへの流入元分析による効果測定も実施し、掲載先の選択が適切であったか等のPDCAを行います。



●登録実績ホームページ

| | |
|--------------------------|----------------------------|
| ◆子供とお出かけ情報「いこーよ」(ホームページ) | ◆JR おでかけガイド.JR 西日本(ホームページ) |
| ◆Comolib(ホームページ) | ◆じゃらん.net(ホームページ) |
| ◆Yahoo!トラベル (ホームページ) | |

■これまでの大船フラワーセンターでの広報実績

●テレビ

| 年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 合計 |
|-------|----------------------------------|--------|-----------|----------|-----|
| 掲載数 | 29件 | 20件 | 17件(コロナ禍) | 8件(コロナ禍) | 74件 |
| 主な掲載先 | テレビ朝日、TBS、tvk、ジェイコム、NHK、フジテレビ など | | | | 8局 |

●ラジオ

| 年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 合計 |
|-------|--------------------------------|--------|----------|----------|-----|
| 掲載数 | 5件 | 8件 | 5件(コロナ禍) | 6件(コロナ禍) | 24件 |
| 主な掲載先 | FM横浜、神奈川マフィン、NHK ラジオ、NHK-FM など | | | | 8局 |

●新聞

| 年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 合計 |
|-------|--|--------|-----------|-----------|-----|
| 掲載数 | 11件 | 24件 | 19件(コロナ禍) | 12件(コロナ禍) | 24件 |
| 主な掲載先 | 朝日新聞、朝日新聞湘南版、神奈川新聞、毎日新聞、読売新聞、読売新聞湘南版、東京新聞 など | | | | 11社 |

●WEB

| 年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 合計 |
|-------|---|--------|-----------|-----------|------|
| 掲載数 | 33件 | 38件 | 18件(コロナ禍) | 14件(コロナ禍) | 103件 |
| 主な掲載先 | 神奈川観光協会・鎌倉市観光課、はまレポ.com・神奈川広報ツイッター、株式会社ライト・マイタウン玉縄、かながわキンタロウ FB・いこーよ、イベントバンク・えきねっと、観光かながわ noe・じゃらん net、鎌倉経済新聞・JRおでかけガイド、みんなの経済新聞、かなかなかぞく など | | | | 53箇所 |

ウ 手話言語条例への対応

1) 手話言語条例の概要と取組への考え方

●施設の利用における入口から出口まで安心して利用できる環境を提供します

神奈川県では令和3年3月31日現在、県民の1,000人に2.6人が聴覚・平衡機能の身体障害者手帳の交付を受けているとされます(県手話推進計画改定素案)。年間約20万人前後が利用する本施設においては500人程度の方が当たると推察されます。

「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念、神奈川県手話言語条例の趣旨である「手話に対する県民の理解を深め、これを広く普及していく」「誰ひとり取り残さない」というSDGsの理念に則り、手話の普及を促進し、ろう者においても花き及び植物に関する知識を学習し、触れ親しむ機会を平等に提供することは私達の責務であると理解しています。私たちは施設の利用における入口から出口まで一貫して誰もが安心して利用することができる環境を整えることで、あらゆる方に花き園芸及び植物に関する情報提供と学習の機会を保障することを県民・利用者の皆様へのお約束として、施設の管理運営・サービスの提供を行います。



●手話言語条例とその周辺の経緯

| | |
|----------|--|
| 平成18年12月 | 国際連合総会において、障害者の権利に関する条約が採択 手話が言語であることが世界的に認められる |
| 平成23年8月 | 障害者基本法の改正 平成25年9月 障害者基本計画第3次計画を策定 |
| 平成25年6月 | 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律制定 平成28年4月1日施行 |
| 平成26年1月 | 障害者の権利に関する条約に日本が批准 |
| 平成26年12月 | 神奈川県手話言語条例制定 平成27年4月1日施行 |
| 平成28年3月 | 神奈川県手話推進計画策定 |
| 平成28年4月 | 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律施行 |
| 平成29年12月 | 手話言語の国際デー(9月23日)制定 |
| 令和3年5月 | 同法の一部改正 |

●手話言語条例

| | |
|----------|--|
| (目的) | ろう者とろう者以外の者が相互にその人格と個性を尊重し合いながら共生することのできる地域社会を実現する |
| (事業者の役割) | ろう者に対しサービスを提供するとき、又はろう者を雇用するときは、手話の使用に関して配慮するよう努めるものとする。 |

●手話推進計画[3つの方向性]

| | | |
|---------|-------------------|------------------|
| 1 手話の普及 | 2 手話に関する教育及び学習の振興 | 3 手話を使用しやすい環境の整備 |
|---------|-------------------|------------------|

2) 神奈川県手話推進計画を踏まえた具体的な取り組み

①施設を訪れる前の情報提供での配慮

●お問合わせへの対応

施設へ事前に確認したいことがある時に電話での問合せは最も一般的で重要なものです。聴覚障害者の方のお問合せの手段としてメールやFAXによるお問合せはもちろんのこと、WEBのわかりやすい位置に必要な情報や問合せ情報を掲載しておくなど、施設を訪れるまでの障がいを取り除きます。

●Webでの情報提供における配慮

Webでのテキスト情報は聴覚障害者にとって便利なものです。一方でWeb上ではテキスト情報だけでなく動画や音声ファイルなども配信されることがあります。このようなファイルの配信にあたっては、それが音声ファイルであることをわかりやすく表示し、ファイルの内容がわかるよう明記するなどの配慮を行います。

●Webでの園芸相談の案内

園芸相談は施設に訪れて頂き対面で行うことが基本となっていますが、聴覚障害者の方が気軽に園芸相談を出来るよう、Webにメールお問合せが可能なことをわかりやすく明記します。

②窓口における対話での配慮

●タブレット型端末を使用した対面型通訳によるスムーズな対話でおもてなし

受付窓口ではご希望されるお客様にShuR社による対面型通訳システムを利用することで、細かなお問合せへも手話によるスムーズなやり取りが可能とします。これにより窓口担当者の手話のスキルに左右されずに全てのろう者の方に安心してご利用いただける環境を提供いたします。



ShuR 社による高品質な遠隔手話

シュアール社の遠隔手話通話サービス



シュアール社は通訳採用基準を手話資格のなかで唯一の公的資格である手話通訳士(合格率10%)のみです。この資格保持者は通話内容の守秘義務があり、裁判、政治の場面の通訳なども任されることができる非常に信頼性の高い資格です。遠隔手話通訳でもわかりやすい大きな表情の動きでろう者とのスムーズな意思疎通が可能です。



●筆談器と対面コミュニケーションを組み合わせたご案内

聴覚障害者の中には手話を使えない方もいることから、電子ホワイトボードを用いた筆談にも対応します。スタッフが直接応対し、コミュニケーションする中で、お客様からのご質問にただ答えるだけでなく、見ごろの植物や各種ご案内事項など、お客様に施設をより楽しんで頂くための情報提供も行うことができます。

③講座やイベントにおける対応

講演形式で提供される講座の開催にあたっては、事前に講演のポイントを印刷した資料の作成、講座の告知に際して聴覚障害者の方も参加できることを明示するなど、障害を理由に学ぶ機会が失われることのないよう、誰もが参加できる講座やイベントを企画します。

④職員、県民に対する手話学習の推進

●朝礼や研修を通じた手話の習得

スタッフに毎朝の朝礼時に手話での挨拶や簡単なご案内などを講習し、誰もが手話によるコミュニケーションを図れるようにします。また神奈川県聴覚障害者福祉センターなどから講師派遣を受けた講習会を開催し、より高度な手話によるコミュニケーションを習得することを目指します。



●障害をお持ちの方でも楽しんで頂けるイベントの開催

日本補助犬協会の協力により、障害者向けに楽しんで頂ける内容や対応を取り入れたイベントを行います。


●県民に対する手話への理解の促進


毎年9月23日の手話言語の国際デーに手話に関する理解を深めるための啓発・広報活動を行います。

(2) 自主事業の実施、苦情要望等への対応、利用料金

ア 施設の特徴をより効果的に活かすために行う自主事業の内容等


施設の特徴を伸ばし、より多くの方に施設を訪れていただくための自主事業を行います。収支計画については申請書類のうち、「エ 必要に応じて添付する書類(ア)自主事業の実施計画および収支計画」をご覧ください。

| | | |
|-----------|--|--|
| 事業内容 | 飲食事業 | |
| 場所 | カフェ・レストラン:レストハウス、観賞温室 ケータリング:玉縄桜広場、ピクニックグランド | 1) 飲食事業 |
| 時期・回数 | 通年を予定 | |
| 事業概要・運営方法 | <p>【カフェ・レストラン事業:レストハウス・観賞温室:】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■レストハウスにて、カフェ・レストラン(アルジャーノン)を営業します。本施設オリジナルメニューなどのサービス内容の工夫をしながら、リピーターの確保に努めます。 ■玉縄桜の開花期や気候の良い春・秋季など、ニーズに応じて適宜ケータリングカーなどによる飲食販売を行います。 |  |

| | | |
|-----------|--|---|
| 事業内容 | 鎌倉野菜市 | |
| 場所 | エントランス (入園ゲート外側)他 | 2) 鎌倉野菜市 |
| 時期・回数 | 土曜日朝 などを予定 | |
| 事業概要・運営方法 | <ul style="list-style-type: none"> ■毎週末の開催や、野菜の収穫量の多い4・5・11月に限定して開催するなど、開催頻度と方法についてはJAさがみの協力を得て実施します。 |  |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ■人気の高い“鎌倉野菜”の朝市をフラワーセンターで定期的で開催することで、施設の新たな集客につなげます。 | |


3) 花苗・グッズ等の販売

| | |
|-------|-----------------|
| | 花苗等の販売事業 |
| 場所 | エントランス（入園ゲート外側） |
| 時期・回数 | 通年 |

| | | |
|-----------|--|---|
| 事業概要・運営方法 | <ul style="list-style-type: none"> ■花苗の販売サービスを今後も継続して行います。 ■これまでフラワーセンターで販売されていた花苗は、園内で咲いている花、またはその時展示でテーマに取り上げている植物を、咲いている・展示している丁度その時期に取りそろえる配慮がされてきました。今後も園内の見ごろの花を取りそろえるよう留意します。 ■さらにコアな植物好きの来園者が多いことから他ではあまり手に入らないような珍しい植物に対する要望が多く、要望をふまえて工夫を凝らした品物が取りそろえられてきました。今後も一般のホームセンター等では手に入らないような特色のある花苗を揃えるよう配慮します。 ■県内で生産され、かつ品質の良い花苗を優先して販売します。 ■フラワーセンターでの花苗販売は、揃える花の種類・時期・量など販売経験を必要とする要素が多い為、現在神奈川県園芸協会から委託を受けて同事業を行っている事業者継続して販売を行っていただくことを第一に調整します。 ■従来は花苗のみの販売でしたが、購入後すぐに家で楽しめるよう、花鉢や土などの資材を販売し利便性を高めます。 ■花苗等に限らず、花やみどりに関連するグッズ類やアイスクリームの販売なども同所で行います。 |  |
|-----------|--|---|

4) ヨガ教室などの講座開催

| | |
|-------|------------------|
| 事業内容 | ヨガ教室などの講座開催 |
| 場所 | 観賞温室内、芝生広場など |
| 時期・回数 | 通年を予定(施設営業日に準ずる) |

| | |
|-----------|--|
| 事業概要・運営方法 | <ul style="list-style-type: none"> ■芝生広場や鑑賞温室内等にて笑いヨガ教室などを開催します。 |
| |  |